

伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日時 令和元年7月9日（火） 14：00～16：10

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 24名

【主な議題と内容】

1 第5期障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画の実施状況報告について

※事務局より資料に基づき説明

- ・就労系サービスについて増加。特に精神障がい者の利用が増加している。
- ・グループホームの利用者が増加。65%が知的障がい者。
- ・施設入所支援は、29年度87人、30年度93人と6人増。
- ・計画相談支援は、平成31年3月末で798人が利用。相談支援専門員1人当たり49.8人。相談支援専門員によっては1人で100人近く担当している。
- ・放課後等デイサービスは増加。29年度1人当たり月6.8日、30年度は月9.2日と増加。
- ・障害児計画は、平成31年3月末で449人が利用。相談支援専門員1人当たり22.9人。
- ・医療的ケア児コーディネーターは、研修修了者は相談支援専門員1名いるが、配置には至っていない。

<委員からの意見>

- ・在宅で就職した方が、半年経過した後に就労定着支援を利用し始める。改めて本人の生活状況を確認することができる。
- ・施設入所者数が増えている結果については、施設の規模を減らすというよりは、グループホームやアパートなどの受入れ体制をどう作れるか。今の制度の中でどれだけ安定したグループホーム運営ができるのか大きなテーマである。世話人の確保や夜間や土日の余暇支援等課題が多い中、各市町村のバックアップによっては、施設の規模を減らすきっかけになるのではと考える。

2 各専門部会の取組及び活動報告について

※各部会長より資料に基づき説明（部会資料を参照）

<委員からの意見>

- ・成年後見センターの相談件数は、30年度も大幅に増加。令和元年度、2名の方を対象に市民後見人養成事業（第2期）を実施。令和4年度12人の登録を目指す。
- ・伊勢原養護学校では、年間3回の避難訓練を実施。待つ、話を聞くなどの具体的な避難行動について訓練を行っている。生徒には防災頭巾ではなくヘルメットを準備。
- ・平塚養護学校では、平塚市、秦野市への福祉事業所合同説明会に参加。秦野市では令和30年度初めて実施し就労だけでなく、生活介護等含めた通所系事業所の説明を行っていた。伊勢原市も実施に向けて各事業所協力して欲しい。

- ・精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築について、30年度は入院中の事例について退院支援に向け検討を行った。今年も引き続き4事例（2事例が伊勢原市ケース）検討を行い課題等まとめ共有していきたい。
- ・自殺対策キャンペーンについて、今年度は伊勢原市にて実施。9/10に駅前にて街頭キャンペーン、9/21に講演会&相談会を実施予定。
- ・土日の余暇の充実についてはとても重要であると感じる。集まれる場所などの一覧があると良いのではないか。

3 第1回湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

- ・令和元年度の活動予定について
- ・地域生活支援拠点等整備の各市町の進捗状況について
 - 相談支援をどのような形でどこに置くか等、相談支援事業に大きく関わってくる。本市は計画において令和2年度までに整備予定としているが、相談支援事業検討ワーキング等において、相談員と共に慎重に協議を行っていきたい。

4 その他

- ・令和元年度障がい者と暮らしを考える協議会全体スケジュールについて
- ・「平成30年度南西部保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター活動報告書」及び「かながわ湘南西障福ナビだより」の配布

第2回伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会

日時 平成30年10月5日（金） 14:10~16:00

場所 伊勢原市役所 2階 20会議室

参加人数 22名

【主な議題と内容】

1 議題

(1) 各専門部会の取組及び活動報告について

【相談支援部会】 部長より資料に基づき説明

○部会参加者としての意見

全般的に社会資源が少ないという地域の特徴があるので、居室確保事業や医療的ケア支援事業など推進が必要

○主任相談支援専門員育成について

国研修が来年始まり、その内容を地域に持ち帰り、県で主任相談専門員育成の研修を実施するが、まだまだ先の話

【権利擁護部会】 部長より資料に基づき説明

○権利擁護に関する意見

津久井やまゆり園についての差別解消フォーラムでの講演は、調整が必要なので、別途相談をいただきたい

○部会活動に関する意見

街頭キャンペーンは参加したいと思う、また、虐待防止は、GHの職員向け研修会を共同で開催してほしい

【こども支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○子ども家庭相談課の発達相談件数が年々増加していることでの課題について

発達相談の8月末までの新規受理が65件、それぞれの相談に課題があり、継続や新規で年度末には200件ほどになるため、継続フォローの面接頻度が下がっている

○養護学校の切れ目のない支援において、卒業後の進路などの課題について

知的に精神が絡む生徒の行き場に悩んでいる

【災害時支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○福祉避難所であるみどり園の課題について

災害が起きた時に機能するよう、他の福祉避難所のすこやか園や地域作業所ドリーム、関係機関と連携を図り支援ができるようお願いしたい

【就労支援部会】 事務局より資料に基づき説明

○能力開発センターの就労定着支援の取り組みなど

企業を対象とした雇用促進セミナーや職安主催の集団就職相談会を実施し、卒業生の96%が一般就労するが、労働習慣が身につけていないので定着できないのが実情

【精神障がい者支援部会】 部会長より資料に基づき説明

○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について

秦野市内の精神病院や東海大学の先生などと事例検討をした結果、高齢の親と精神障がいの子、親亡き後の精神障がい者の支援、経済的な面での課題などが見えてきた

【当事者部会】 部会長より資料に基づき説明

○障害者スポーツ大会の当日の様子について

企画の段階から当事者が参加しており、良い活動ができていた

(2) 第4期障害者計画・障害福祉計について

→事務局より資料に基づき説明

○平成29年度の取組結果について報告

(3) 画第5期障がい者計画・障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画について

→事務局より資料に基づき説明

○障害福祉サービス等の実績及び見込みについて報告

○(仮)居室確保支援事業について、事業概要・目的、現状と課題、今後のスケジュール等を説明

○(仮)医療的ケア支援事業について、事業概要・目的、現状と課題、今後のスケジュール等を説明

○(仮)児童発達支援センターの設置について、事業概要・目的、現状と課題、今後の対応の考え方等を説明

2 その他

☆湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会の取組について

→委員より資料に基づき説明

○前回の協議会で相談支援部会長よりお願いされた「医療的ケアの必要な事例」の自立支援協議会での検討を実施したことで、課題を圏域でも共有し、各委員から医療的ケアの必要性についての意見が多かった

☆伊勢原市自殺対策計画について

→事務局より資料に基づいて説明

☆高次脳機能障害の基礎知識についての研修会の案内

→平塚保健福祉事務所秦野センターより説明

次回協議会は、2月5日（火）午後2時～ 2C会議室にて開催

第3回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日時 平成31年2月5日（火） 14:00～16:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 名

【主な議題と内容】

1 議題

(1) 平成30年度相談支援事業について

→事務局より資料1に基づき説明

・平成30年度障害者相談支援事業実績状況報告について

○今年度の相談支援の現状について

相談件数は増えている。市外の当事者を受けていたが、市内を主にするようにしている。

事業所やGHを換えたいと言う相談が多い。

(2) 各専門部会の取り組みについて

【相談支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○GSVの開催頻度が多いので継続して実施して欲しい

○4,5年前に作成した福祉マップを最新に更新して、また作成して欲しい

【権利擁護部会】 部会長より資料2に基づき説明

○街頭キャンペーンなどの当事者の活動について

街頭キャンペーンに参加いただきありがたい。就労については、精神障がい者の就労支援が増えているが、支援者不足の課題がある

○虐待防止の研修会について補足があれば

今年度も好評だったので、来年度も引き続き実施していきたい。

【こども支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動内容について感想などあれば

養護学校に保護者から事業所の相談等があるので、事業所の紹介などはとても役に立つので、引き続きお願いしたい。

○療育における子ども家庭相談課の役割について

保護者からの発達相談があれば、親子との面談と発達検査を実施し、ふさわしい支援を行政と親子で考えていく。昨年からは心理士、保育士、保健師、言語聴覚士で対応し、関係機関へつなぎ連携しながら総合的に支援している。

【災害時支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○自然災害などに対する取り組みがあれば

社協では、日本気象予報士会から講師を招き、伊勢原市の地形を確認し避難経路の確認などを勉強する。また、被災地へのボランティア活動に対する交通費の支援を行う。

【就労支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

【精神障がい者支援部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動について

精神障がい者を支える事業所連絡会で合同新年会を実施し、多くの方に参加いただいたので、来年度も引き続き実施していきたい。

【当事者部会】 部会長より資料2に基づき説明

○部会の活動について意見等あれば

町点検など当事者が多く参加しており、良い活動ができている

《部会全体について質問等あれば》

○権利擁護部会で差別相談件数が2件と報告があるが、相談窓口はどこになるのか、相談窓口の周知をしたらどうか。

→事務局より

差別や虐待の窓口は障がい福祉課になる。毎年相談件数は少ない。

圏域の差別解消協議会でも各市町の相談件数は少ないと報告がある。

○放デイや児童発達支援などどこを選んでいいかわからないと言う保護者の声を聞くので一覧で見る資料があるのはいいと思う。また、ピアのつどいがあるのは、当事者にとっては心の支えになるのではないかと。知的障がい者も集える場所が作ればいいのではないかと。

○相談事業所から各サービスに繋がっていくので、事業所の連携や継続的な活動も重要となるので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

(3) 第5期障がい者計画・障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画について

→事務局より資料3、4、5-1、5-2に基づき説明

- ・(仮)居室確保支援事業について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明
- ・(仮)医療的ケア支援事業について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明
- ・児童発達支援センターの設置について、事業概要・目的、取組方針、進捗状況を説明

○居室確保事業は委託になるのか。

→複数のGHと協定を結び、空き部屋を確保できるようにする。

(4) 湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

→圏域内の各市町の活動内容の報告と地域生活拠点の整備についての検討、先進事例の報告など。

2 その他

○協議会全体を通して

児童発達支援センターで、不安を抱えた親が一般相談しやすい活動拠点を進めていただきたい。

○事務局より・・・本年度の協議会は最後となるが、任期は2年となるので、来年度も引き続きお願いしたい。就労支援部会長は、定年退職により退任の申出があったので、来年度選任することになる。

企画運営会議

第1回企画運営会議

日時 令和元年6月25日（火） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 ●名

[主な議題と内容]

1 各専門部会の活動報告について

※各専門部会からの経過報告

2 第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会内容について

日時 令和元年7月9日（火）午後2時～4時予定

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

内容 ・第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の実績報告について
・各専門部会の活動報告について
・今年度の取り組み、協議内容について
・湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

第2回企画運営会議

日時 令和元年9月25日（水） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 ●名

[主な議題と内容]

1 各専門部会の活動報告について

※各専門部会からの経過報告

2 第2回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会の内容について

日時 令和元年10月10日（木）午後2時～4時予定

- 場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室
内 容 ・各専門部会の活動報告について
・湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

第3回企画運営会議

日 時 令和2年1月28日（火） 14：00～16：00

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 ●名

[主な議題と内容]

- 1 各専門部会の活動報告及び令和2年度の取組みについて
※各専門部会からの経過報告
- 2 第3回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会内容について
日 時 令和2年2月10日（月）午後2時～4時予定
場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室
内 容 ・各専門部会の活動報告及び令和2年度の取組について
・湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について
※協議会内容について確認。

相談支援部会

第1回相談支援部会

日時 平成31年4月18日（木） 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 29名

[主な議題と内容]

1 情報提供

- (1) 障がい福祉課 職員紹介
- (2) 平成31年度相談支援部会の日程について
 - ・勉強会+情報交換会 4回
 - ・GSV事例検討研修 4回
 - ・合同事業所見学ツアー 1回
 - ・1年の振り返り 1回
 - ・懇親会 2回 計 年12回

2 勉強会

平成31年度障がい福祉課予算概要、平成29年度決算状況について
(障がい福祉課長より説明)

3 その他

- (1) 相談支援部会 部会長が出席する会議の参加協力について
- (2) GSV事例検討 ケース提供事業所の調整について
- (3) 特定事業所加算等について
- (4) 湘南西部障害保健福祉圏域生活ナビゲーションセンターより、平成30年度取組状況について報告。
- (5) 事業所からの情報提供

4 フリートーク



第2回相談支援部会

日時 令和元年5月15日（水） 18:00~20:00

場所 -

参加人数 ※都合により中止

第3回相談支援部会

日時 令和元年6月10日（月） 14:00～16:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 25名

[主な議題と内容]

1 報告事項

(1) 平成30年度湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター活動報告書について

(2) 伊勢原市児童発達支援センター（仮称）の事業所選定結果について

- ・受託事業者：特定非営利活動法人 リオフィールド
- ・事業所名称：児童発達支援センター『大きな樹』
- ・8月中旬頃、施設見学会を予定。
センター利用希望があれば、市に連絡をお願いします。

(3) こども支援部会事業所情報シートについて

こども支援部会で、事業所の情報をまとめたシートを作成。相談員が欲しい情報があれば、ご意見いただきたい。

(4) その他

- ・広報いせはら6月号「ドリーム相談室」掲載について
- ・クロスワーク伊勢原主催 研修会「相談事業所の未来を考える」のご案内
- ・グループホーム空き状況のご案内

2 相談員等スキルアップ研修 その1

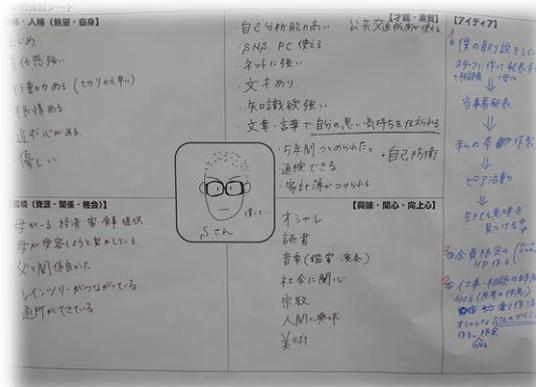
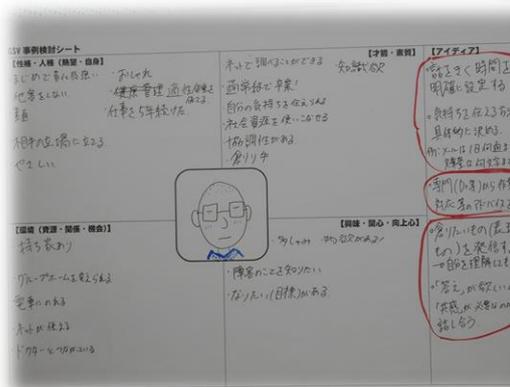
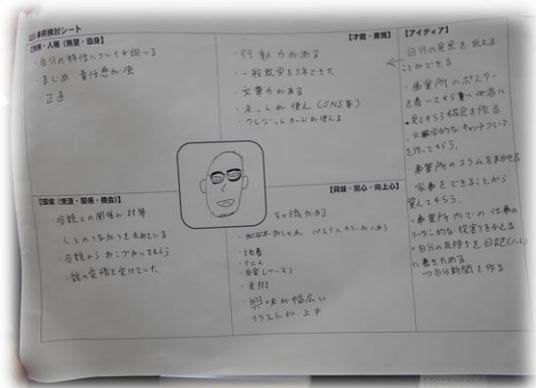
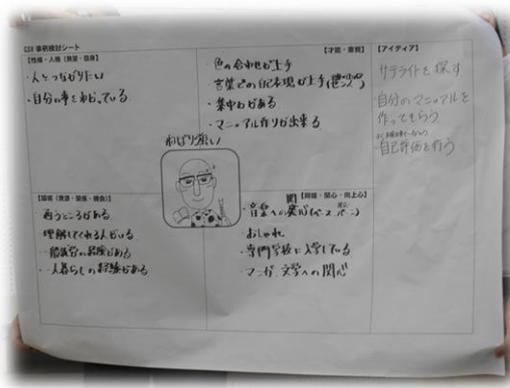
「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」

周囲を振り回してしまう傾向にあるアスペルガー症候群のケースで、検討を行いました。

幼少期から対人関係の問題を抱えており、被害妄想も強く、社会に対しての不満や疑念が鬱積しやすく、それを受け止める支援が中心となっていたようです。事業所として日常生活の充足感や納得感を得られるために、どう支援していけるとよいかという投げかけでした。

対応の難しさを感じるケースでしたが、ストレングスも多く出され、事例提供者もフロアからの自由な発想・発言に感動していました。グループスーパービジョン、事例検討と事例提供の両方を是非体験していただきたいと思います。





第4回相談支援部会

日時 令和元年7月23日（火） 10:00~12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 25名

【主な議題と内容】

(1) 伊勢原市児童発達支援センターに関する事業所見学会について

(2) 相談員等スキルアップ研修 その2

「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」 事例提供者：かなえ相談室

今回は、なかなか次の展開につながらない広汎性発達障がいの場合について、検討しました。就労移行支援や就労継続支援B型の事業所の利用に向けて話しが進むと、意欲が低下し中断してしまう。相談員としては、サービス利用だけが支援ではないと考えつつ、働きたいと希望するご本人に、どう対応してよいか迷っている状況でした。

「福祉にはめ込まなくてもいいのでは？」

本人に必要なことはどんなことを考え、福祉だけにとらわれず、柔軟に対応出来る支援が提案され、視野が広がりました。



GSV 事例検討シート

<p>【情報・人柄 (職業・自身)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由行動できる 自分の考えを主張できる 経験豊富 知識が豊富 経験豊富な人との関係性がある 自己主張ができる 手元を握っている <p>【環境 (資源・関係・機会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備が整っている 収入が安定している 自由な時間がある 生活が楽 家族の理解が得られている 	<p>【才能・素質】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力 リーダーシップ 時間管理能力 柔軟性 多岐にわたる知識 柔軟な発想 	<p>【アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる
---	---	---

GSV 事例検討シート

<p>【情報・人柄 (職業・自身)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 得意で得意 定期的な通関ができる (1人で) おだやかな 人内関係が安定している <p>【環境 (資源・関係・機会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族関係良好 十分な収入がある サービスが充実していて、早く就業できる 交友関係が広い 交友が広い 	<p>【才能・素質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 柔軟性 コミュニケーション能力 リーダーシップ 時間管理能力 柔軟性 	<p>【アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる
---	---	---

GSV 事例検討シート

<p>【情報・人柄 (職業・自身)】</p> <ul style="list-style-type: none"> マイペース 意見を述べる 慎重な性格 親しい関係性 <p>【環境 (資源・関係・機会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準年収あり 収入がある 家族関係が良好 通関士、生活が楽 通関士関係が良好 	<p>【才能・素質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己調整力 柔軟性 コミュニケーション能力 判断力がある 	<p>【アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる
---	--	---

GSV 事例検討シート

<p>【情報・人柄 (職業・自身)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 慎重 新色がない 細かい 清潔感がある 健康志向 自己管理している <p>【環境 (資源・関係・機会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族関係が良好 (母が通関士) 精神科が定期受診している 収入がある 年金がある 親の物心遣い 手帳がある 	<p>【才能・素質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己調整力 柔軟性 コミュニケーション能力 判断力がある 	<p>【アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる
---	--	---

GSV 事例検討シート

<p>【情報・人柄 (職業・自身)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧な人柄 丁寧な人柄 丁寧な人柄 丁寧な人柄 <p>【環境 (資源・関係・機会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西鉄 京橋駅 経理 京橋駅 年金 京橋駅 年金 京橋駅 年金 京橋駅 	<p>【才能・素質】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力 柔軟性 コミュニケーション能力 柔軟性 	<p>【アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる 自分の考えを主張できる
---	---	---

第5回相談支援部会（懇親会）

日時 令和元年8月23日（金） 18:30～21:00

場所 北の庄

参加人数 16名

第6回相談支援部会（勉強会）

日時 令和元年9月20日（金） 10:00～12:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 16名

【主な議題と内容】

1 勉強会

「介護保険について学ぼう」

講師：いせはら介護支援専門員協会 副会長 三浦 美穂子 氏

（JA神奈川県厚生連 介護老人保健施設 ほほえみの丘）

障がい者の高齢化に伴い、介護保険への移行や併給ケースが増え、ケアマネージャーとの連携が必要なケースが増えてきました。介護との連携が大事になってきた中で、改めて介護保険制度について学ぶ必要性を感じ企画しました。いせはら介護支援専門員協会に講師を依頼したところ、快くお受けいただきました。三浦副会長のお話は大変分かりやすく、複雑な制度の基本をしっかりと学ぶことができました。また、「おたっしや情報誌」にまとめられた伊勢原市の介護情報も、障がい分野で活かせる内容も多く掲載されていました。

ケアマネージャーと顔の見える関係を作り、介護と障がいの連携を密にして、利用者のみなさんの安心に繋げていきたいと思えます。



2 その他

- ①相談支援充実強化事業について
- ②伊勢原市スポーツ活性化事業について
- ③神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修について

第1回障がい者相談支援事業検討ワーキング

日時 令和元年10月31日（木） 9:30~11:00

場所 伊勢原市役所 2階 親睦会会議室（和室）

参加人数 10名

[主な議題と内容]

1 基幹相談支援センターのあり方について

- ・本市の基幹相談支援センターフロー図（案）について意見交換。
- ・基幹センターの運営を直営から委託化に向け検討。
- ・委託相談支援を障がい種別毎（身体・知的・精神・児童）に区分し、児童は先行して「児童発達支援センター」に委託済。

<意見交換>

- ・他の事業所に振り分けできず、委託相談事業所で計画相談を行うこととなり負担増が懸念され、そのことで一般相談が受けられなくなる可能性もある。
- ・一般相談を「専従」とするところもある。
- ・一般相談のみの対応であると、計画相談の感覚が鈍る。上限対応件数を決め、計画相談を行っても良いのではないか。
- ・一般相談及び計画相談の振り分けを4事業所それぞれ行うのではなく、1カ所（1本化）して行った方が良いのではないか。
- ・基幹センターと委託相談を同時に実施するのではなく、段階的に開始してみてもどうか。

令和2年度 委託相談 開始

令和3年度 基幹センターの委託化検討

令和4年度 基幹委託 開始

2 重点施策（医療的ケア、居室確保等）の展開について

事務局より事業内容（案）について説明

<意見交換>

- ・事故補償等の保険適応について確認が必要。
- ・就業規則の変更が必要。
- ・施設の利用が可能かどうか、県への確認。

3 その他

全体を通して

- ・各事業所、人事配置等について動き出している。主要なメンバーが継続できるよう、今後の方向性も含め、理事長等への説明が必要。
 - ・相談支援専門員の予備軍について、各事業所への確認、把握が必要。
 - ・相談支援事業所全体への説明会が必要。その上で受託法人等について選定が必要。
- 11月初旬に主要な相談支援事業所を訪問し、今後の展開等について説明を行い、上記内容等についても確認を行うこととする。

第7回相談支援部会&第3回こども支援部会合同事業所見学会

日時	令和元年11月6日(水) 13:30~16:00
場所	地域活動支援センターねくすと、伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹
参加人数	39名(こども支援部会 22名、相談支援部会 17名)

[主な議題と内容]

※第3回こども支援部会記録を参照

第8回相談支援部会

日時	令和元年11月21日(木) 10:00~12:00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	26名

[主な議題と内容]

- (1) 就労支援部会企画「障がい福祉事業所合同説明会」「障がい福祉の合同就職説明会」
についての情報提供

※事務局より説明

- (2) 相談員等スキルアップ研修 その3

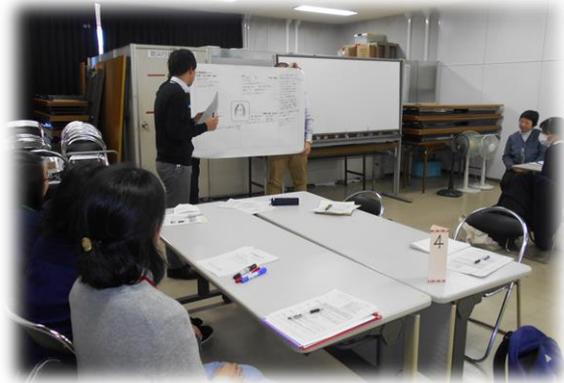
「グループスーパービジョンの手法を使った事例検討」

事例提供者：障がいサポートコールラビ、障がい福祉課

今回は、虐待の疑いがあるケースについて、ストレングス視点を踏まえながら、支援方法について各グループでアイデア出しを行いました。

危機介入の視点でのアプローチ事例であり GSV の手法を使った検討としては難しい内容ではあったが、各グループからは「将来のビジョンを具体的に一緒に考えてみる」「まずは本人の希望をしっかり聴いてみる」など、本人の意向を重視した、時間をかけた支援方法についてのアイデアが多く出され、GSV の研修を積み重ねている成果が現れていると改めて感じました。





第9回相談支援部会(冬の懇親会)

日時 令和元年12月20日（金） 18:30～

場所 大好きや 伊勢原店

参加人数 14名

第10回相談支援部会

日時 令和2年1月22日（水） 10:00～11:45

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 23名

【主な議題と内容】

1 令和元年度相談支援部会活動の振り返り及び令和2年度の取組について

○回数、時間等

- ・午前、午後、夜間とそれぞれの時間帯で実施がよい。
- ・毎月開催。
- ・他の部会もあるため、2か月に1回の開催でもよいのではないか。

○GSV事例検討会

- ・他のケースを学ぶいい機会。気づきが多く、学びの場。
- ・様々な障がい特性を学び、業務に活かせる。
- ・現場の職員と相談員で分けて実施もよいのではないか。

○勉強会

- ・お金の支援について学びたい。やりくり支援、電子マネーについてなど
- ・他の事業所がどうしているか、悩みを相談し合える時間にしたい。
- ・各事業のガイドラインについて
- ・他市の相談支援、福祉制度を知りたい。
- ・伊勢原養護、平塚養護学校の先生との情報共有

○事業所見学

秦野精華園（R2.4月リニューアル）、合築型福祉施設ベースキャンプ愛甲、ファミリーキッズ伊勢原就労支援型放ディ、インクルーシブ教育実践推進校新規のグループホームなど
合同開催とのタイトルで、参加しやすさがある。

2 その他

部会長の選出方法～事務局一任

第2回障がい者相談支援事業検討ワーキング

日時	令和2年1月23日（木）	13:30～15:00
場所	伊勢原市役所 2階	親睦会会議室（和室）
参加人数	8名	

[主な議題と内容]

- 1 基幹相談支援センターのあり方について（経過報告）
 - ・11月初旬に、緑友会、手をつなぐ育成会、さくらの家福祉農園、至泉会、社会福祉協議会に今後の基幹相談支援センターのあり方及び拠点整備等支援体制等について、理事長及び管理者等へ説明及びヒアリングを実施。
 - ・全体構想については各事業所、概ね理解を示していただいたところではあるが、人材の確保が困難なこと、また相談員の負担等に関してご意見をいただき、令和2年度からの委託相談の委託化については、実現が難しい状況であった。
 - ・そのため、引き続き障がい福祉課が基幹相談支援センターの役割を担いながら、今後の相談支援体制のあり方等について、協議会を通じて協議研究を重ねていくこととする。

2 計画相談に関する相談支援事業所調整について

令和2年度より、相談支援事業所が1カ所閉止、1カ所が相談支援専門員の退職により担当ケースの継続相談が不可となる旨の相談があった。成人約120名、児童約40名（約160名）について、相談員の変更が必要となるが、現在の各相談支援事業所での対応状況では割り振ることは困難な状態にある。今回の相談員変更方法についてワーキングにて意見交換を行うこととした。

<意見交換>

- ・市ケースワーカーが対応するにしても限度がある。
- ・児童発達支援センターが既に基幹相談の受託を受けているため、対応ができるかどうか検討。
- ・ケース状況によって、モニタリングの頻度を減らしてはどうか。
- ・通所事業所支援員のサポートによるセルフプランの作成に切り替えてはどうか。その場合、通所支援事業所に協力してもらえるか。
- ・セルフプラン対象者の枠を見直してはどうか

(セルフプラン対象者)

現行	変更後（案）
新規希望者で ○精神障がい者で就労移行支援のみ希望する者 ○精神障がい者で就労継続支援A型のみ希望する者 ○短期入所のみを希望する者 ※上記の者を目安として、基幹相談支援センターにて判断する。	新規希望者で ○就労移行支援（就労アセスメント含む）のみ希望する者 ○就労継続支援A型のみ希望する者 ○就労定着支援のみ希望する者 ○短期入所のみを希望する者 ※上記の者を目安として、基幹相談支援センターにて判断する。

- 上記意見を踏まえ、基幹相談支援センター内（障がい福祉課内）で打合せを行い、対応について協議する。
- その後、引継ぎ対象ケースについて、担当相談支援専門員と個別ケースの状況確認をし、モニタリング頻度等も含め整理を行う。その上で、各相談支援事業所への引き継ぎ相談を行うこととする。
- また、各相談支援事業所には、メールにて相談支援事業所及び相談員の減について報告、情報共有を行う。

権利擁護部会

第1回権利擁護部会

日時 令和元年6月14日（金） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 7名

[主な議題と内容]

- 1 平成30年度障がい者虐待対応相談件数について
資料について事務局より説明。
 - ・平成30年度相談件数 4件（養護者3件、施設従事者1件、使用者0件）
 - ・相談件数の内、1件セルフネグレクト。
 - ・虐待者に「母親」が多い特徴がある。
- 2 平成30年度障がい者差別相談件数と内容について
資料について事務局より説明。
 - ・平成30年度相談件数 2件。
 - ・相談者と相手方の見解の相違など対応の難しさを感じる。
 - ・事例対応については、湘南西部保健福祉圏域障害者差別解消支援地域協議会において協議される予定。
- 3 令和元年度権利擁護部会の取組について
 - (1) 社会福祉協議会主催「障害者週間」街頭キャンペーンへの参加
 - ・12/3（火）13：00～1時間程度 小田急伊勢原駅北口および南口にて実施予定。
 - ・障がい者就労支援事業所等から啓発物品を購入し配布。（700セット）
 - ・当事者部会及び各事業所への参加協力を要請。
 - (2) 研修会等の実施
 - ①（福）緑友会 みどり園、つくしの共催で、権利擁護研修を実施。
 - ・事務局と緑友会とで日程調整等行う。
 - 12/6（金）午後6時～ みどり園にて
講師：和泉短期大学 鈴木敏彦教授（予定）
 - ② GH等職員向け研修の実施。
 - ・平成28年度に実施した研修が好評であったため、再度実施を検討。
 - ・現場職員向けに、グループワーク等と取り入れた内容とする。
 - ・講師は事務局にて調整。
 - (3) 1年の振り返り
 - ・次年度の取組みについて協議する。

第2回権利擁護部会(障害者週間啓発街頭キャンペーン)

日時 令和元年12月3日(火) 13:30~14:30

場所 伊勢原駅 北口・南口

参加人数 54名(当事者23名・支援者31名)

【主な議題と内容】

障害者週間(12月3日~9日)に合わせ、社会福祉協議会、権利擁護部会及び当事者部会、他関係機関と一緒に伊勢原駅北口及び南口において、街頭キャンペーンを実施しました。

啓発物品は10事業所(地域作業所ドリーム・さくらの家福祉農園・貴有意の郷・つくし・伊勢原そよ風ハウス・デイ空・レインツリー伊勢原営業所・すこやか園・ねくすと・コレクティブおおやまみち)よりご提供いただき、700セット配布いたしました。



今年も素敵な物品をたくさんご提供いただきました！



お天気も良くて気持ちよく活動できました。



今回はクルリンと一緒に盲導犬グラッドも参加してくれました。盲導犬とのふれあいもしていただきながら、啓発活動を行いました。すっかりリラックスしている様子に、みんなホッコリ♪



最後に、クルリンと一緒にみんなで記念撮影をしました。
ご協力ありがとうございました。

第3回権利擁護部会（障がい者虐待防止研修会）

日時 令和元年12月6日（金） 18：00～20：00

場所 （福）緑友会 みどり園

参加人数 36名 （部会関係者 9名、緑友会職員27名）

[研修内容]

「障がい者虐待の防止と権利擁護」

講師：和泉短期大学 児童福祉学科教授 鈴木 敏彦 氏

主催：（福）緑友会 みどり園・つくし

共催： 伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会権利擁護部会
伊勢原市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク

今年度もみどり園との共催で、障がい者の権利擁護・虐待防止の研修を開催しました。「神奈川県障害者自立支援協議会会長」や「神奈川県 意思決定支援専門アドバイザー」など多方面で障がい者の権利を守る活動をしている、和泉短期大学 の鈴木敏彦教授にお話をいただきました。

虐待予防、権利擁護ということを理解しているつもりでしたが、改めて虐待について再認識し、これまでの自分達の対応を振り返る貴重な時間となりました。虐待はあり得ることで完全になくすことは困難かも知れません。しかし、その底辺にある不適切行為に気づきなくす努力をしていくことが、虐待防止・障がい者の権利を守ることに必ずつながります。ユーモアを交えながらのお話に惹きつけられ、2時間があっという間でした。

今後も、こうした研修をみなさんと一緒に重ねていきたいと考えています。



第4回権利擁護部会

日時 令和2年1月21日（火） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 6名

[主な議題と内容]

1 令和元年度の活動報告について

○障がい者週間街頭キャンペーン

- ・当事者部会の参加者より、啓発物品を配布する目的や自分たちが障がい者であることがわかってもらえず、渡すのに苦労したとの報告があった。
- ・語らなくてもキャンペーンの趣旨等が伝わるように、ヘルプマークの着用や周知看板の作成等、工夫が必要。
 - 当事者部会と一緒に配布方法等について検討したい。

○各種研修会について

■みどり園での権利擁護研修について

- ・鈴木先生の講義は、大変わかりやすく好評であった。
- ・意思決定支援について、詳しく聞きたかった。
- ・虐待や権利擁護について、再認識することができた。
- ・支援のあり方について当たり前にならないように、再認識できる機会として、研修を継続して実施することは必要である。

■グループホーム等職員研修について

- ・日時 令和2年2月6日（木）午後1時～3時予定
- ・会場 伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール
- ・内容 「障がい者の権利擁護について」
 - (1) 障がい者の権利擁護について【講義】
 - (2) 事例共有及び意見交換【グループワーク】
- ・講師 (福)唐池学園 貴志園 園長 富岡 貴生氏
- ・対象 障がい者グループホームの支援に携わっている職員、障がい福祉関係事業所等、研修に興味のある職員
- ・3年ぶりの開催。現場の支援員の研修機会として、多くの人に参加できるよう周知したい。また、来年度も継続的に実施していきたい。

■高齢者及び障がい者虐待防止講演会について

- ・日時 令和2年2月20日（木）午後2時～4時予定
- ・会場 伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール
- ・内容 「虐待防止について共に考える」
- ・講師 みなと横浜法律事務所 弁護士 内嶋 順一氏
- ・「伊勢原市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク」と連携し、次年度も一般市民向けに啓発研修を実施していきたい。

2 令和2年度の取組について

○障がい者週間街頭キャンペーン

→ 実施方法等について、当事者部会と検討する。

○各種研修会の実施

- ・緑友会との合同研修
- ・グループホーム等職員研修
- ・高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク一般市民向け啓発研修

○その他

- ・当事者部会との意見交換会の実施
(虐待や障がい者差別等について、当事者と意見交換をしたい)

グループホーム等職員研修

日時 令和2年2月6日(木) 13:00~15:00

場所 伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール

参加人数

[研修内容]

「障がい者の権利擁護について」

- 1 障がい者の権利擁護について【講義】
- 2 事例共有及び意見交換【グループワーク】

講師：(福)唐池学園 貴志園 園長 富岡貴生 氏

高齢者・障がい者虐待防止講演会

日時 令和2年2月20日(木) 14:00~16:00

場所 伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール

参加人数

[研修内容]

「虐待防止について共に考える」

講師：みなと横浜法律事務所 弁護士 内嶋 順一氏

主催／伊勢原市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク

共催／いせはら市介護支援専門員協会

伊勢原市地域包括支援センター社会福祉士部会

伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会権利擁護部会

こども支援部会

第1回こども支援部会

日時 令和元年5月17日（金） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 18名

[主な議題と内容]

1 令和元年度こども支援部会の取り組みについて

(1) 勉強会、事業所見学ツアーについて

・第2回（6/28）防災危機管理について

各事業所での災害に対する備えはどうしているのか。

東日本大震災時、各施設ではどう対応したか（子ども達への対応、保護者への対応、スタッフの役割分担、送迎は行ったか、ガソリンの確保はどうしたか、事業所同士での協力体制があったか等）

日常的な応急対応や安全対策の実施状況の共有。AEDの訓練の実施。

→①東日本大震災直後 1週間をイメージしてグループワークを行う。

引き取り、開所の判断、備蓄、ガソリンの確保、避難訓練などの情報を記入できるフォーマットを事務局で作成。事業所毎に記入し、当日共有する。

②被災地にいたスタッフからの体験談

・事業所見学

案1：伊勢原市児童発達支援センター

案2：見学していない市内の事業所（午前：放ディ、午後：児発）

後日、事務局にて調整

(2) GSV事例検討研修について

前回実施した事業所が指名する。

2 事業所説明会

・各事業所が事前に作成したフォーマットに基づき説明。

・事業所案内を今後どのように活用するのか？→当面は、相談員や行政で活用。

・フォーマットへの追加情報はあるか？

空き情報、在籍児数、職員数、具体的な支援内容、プログラムなど

相談支援部会で内容を見てもらい、入っていた方がよい情報がないか確認する。

3 その他情報提供

・就学前の障害児の発達支援の無償化に係る方針について

・平成31年5月審査（4月サービス提供分）における障害者自立支援給付審査支払等システムの対応等について

・研修会のお知らせ：子ども家庭相談課より



【記載例】

ふりがな	ほうかごとうでいきびす・しやくしょ		対象年齢	6～18歳(就学児)	開所日	S46年3月
事業所名	放課後等ディサービス・しやくしょ		児童発達管理責任者	クルリン		
団体(法人)名	NPO法人 しやくしょ					
住所	伊勢原市田中348			駐車場	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
電話	0463-94-4721	e-mail	shien-c@isehara-city.jp			
電話対応時間	8:30～17:00	FAX	0463-94-7612	URL	http://www.city.isehara.kanagawa.jp/	
運営方針/事業所の特色やPR						
<p>放課後等ディサービス・しやくしょでは、お子さんの成長に合わせた対応を行いながら、グループ活動を取り入れています。 外遊びや運動を用いることで、お子さんの身体的・精神的機能の向上やコミュニケーション能力、社会性を促します。お子さんができることに着目して、支援を行っています。</p>						
有資格者			児童が使える関連サービスの実施			
<input checked="" type="checkbox"/> 保育士 <input type="checkbox"/> 看護師 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床心理士 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> その他			<input type="checkbox"/> 日中一時支援 <input type="checkbox"/> 居宅介護 <input type="checkbox"/> 移動支援 <input type="checkbox"/> 短期入所 <input checked="" type="checkbox"/> 障害児相談支援 <input type="checkbox"/> 行動支援 <input type="checkbox"/> その他			
指導形態	<input type="checkbox"/> 個別	<input checked="" type="checkbox"/> グループ	通所形態	<input type="checkbox"/> 親子通所	<input checked="" type="checkbox"/> 単独通所	
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 車椅子対応トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> 玄関前スロープ	送迎	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> 送迎地区	伊勢原市内全域
その他			<input type="checkbox"/> なし			
1日の流れ			開所日			
13:00 学校へお迎え 14:00 グループ活動 15:00 おやつ 16:00 個別療育 17:00 帰りの会			<input checked="" type="checkbox"/> 月 <input checked="" type="checkbox"/> 火 <input checked="" type="checkbox"/> 水 <input checked="" type="checkbox"/> 木 <input checked="" type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 祝日			
			開所時間			
			平日 13:00～17:00 土曜 <input type="checkbox"/> ～ <input type="checkbox"/> 日曜 <input type="checkbox"/> ～ <input type="checkbox"/> 祝日 <input type="checkbox"/> ～ <input type="checkbox"/> 学校休業日 9:30～17:00 ※時間延長の相談 <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可			
事業所の写真(外観、事業所内)						
				<p>所長のクルリンです。</p>		

第2回こども支援部会

日時	令和元年6月28日（金） 10：00～12：00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	21名（こども支援部会17名、災害時支援部会4名）

【主な議題と内容】

1 勉強会（グループ討議）

「防災危機管理について」

防災に関する勉強会ということで、災害時支援部会と合同で開催した。平成23年3月11日に発生した東日本大震災当日から1週間以内の事業所の対応と災害に対する日ごろの備えに関するアンケートと、事業所が作成している防災マニュアルを事前に提出してもらった。

当日は、アンケート結果と防災マニュアルを基に、5グループに分かれて討議を行い、アンケートに書かれた他事業所に聞いてみたい項目（震災発生後の開所時期や保護者が迎えに来られない場合の対応、職員間の緊急連絡方法、備蓄状況、防災訓練での工夫など）を中心に、対応方法や意見を出し合い、グループ毎に発表を行った。

当時、市内で開所していた事業所の中で甚大な被害を受けた事業所はなかったが、震災直後の実際の対応で苦労した事や今後の災害への備えなど、貴重な情報共有の場となった。

今回、テーマを絞ったが、時間内で話しきれないほど活発な討議が行われたことから、今後も防災をテーマに勉強会等を開いていくこととしたい。

2 東日本大震災の体験談（ファミリー・サポート湘南 星ひとみ氏）

震災当時、東北の大規模な障がい者支援施設（第一原子力発電所から約100km離れている。）に勤務していた星氏から、入所者の様子や職員の対応、反省点など、実際に体験したからこそ感じられた貴重な体験談を聞くことができた。

3 その他

- ・10月の部会で予定している事業所見学ツアーの候補先は、10月開所の市児童発達支援センターまたはまだ見学に訪れていない市内の事業所とし、今後調整する。
- ・第1回の部会で使用した事業所情報を紹介するシートに関して、7月23日の相談支援部会で追加して欲しい情報や意見等を募り、シートを完成させて行政や相談員の資料として活用していく。意見があれば障がい福祉課へ連絡してもらう。
- ・第5回の部会で予定しているGSV事例検討研修において、事例発表を担当する事業所は、ひこうせんの栗城氏に決定したことを報告した。
- ・近年の自然災害の増加等を受けて、厚生労働省等から発出された防災情報や安全管理に関する通知について周知を図った。
- ・児童福祉法施行令の一部を改正する政令等が令和元年10月1日から施行されることに伴い、就学前（3～5歳）の障がい児の児童発達支援等の利用者負担が無償化されることから、事務手続きについて周知を図った。



グループ番号

記録用紙

事業所アンケート 4 その他 防災対策について、他事業所に聞いてみたいこと

質問1	震災後、いつ頃どういった状況になったら開所をし始めるのか。 (アシスタントスクール つくしんぼ)
回答	
質問2	保護者が迎えに来られない場合の対応について知りたい。(こども教室・あん)
回答	
質問3	職員間の緊急連絡について、どのような方法を用いているか。ライン(LINE)等の活用はあるのか。(すこやか園)
回答	
質問4	災害時に利用者が宿泊しなければならない際に対応する設備準備を行っているか。 (めだかくらぶ)
回答	
質問5	災害時に入所や訪問系などの他事業所への職員の派遣を行う予定があるか。 (めだかくらぶ)
回答	
質問6	何をどのくらい備蓄しているのか。(ファミリー・キッズ)
回答	
質問7	防災訓練の事業所ごとに工夫していることはあるか。(地域作業所ドリーム)
回答	

第3回こども支援部会

日時	令和元年11月6日（水） 13：30～16：00
場所	地域活動支援センターねくすと、伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹
参加人数	39名（こども支援部会 22名、相談支援部会 17名）

【主な議題と内容】

※こども支援部会、相談支援部会合同で事業所見学会を行い、今回は、「特定非営利活動法人いせはらネクスト ねくすと（地域活動支援センター）」と「特定非営利活動法人リオフィールド おおきな樹（児童発達支援センター）」に伺った。

【ねくすと】

*施設内見学、事業概要説明：長谷川氏

- ・平成15年から作業所を開始
- ・利用者は男女計15名（Ⅲ型）

定期的に通院しており状態が安定している
精神障がい者

毎日通所している方が1/3、曜日指定で
通所している方が1/3、その他の方は

曜日を決めた上で不定期に通所

月曜日と火曜日に来ている方が多く、

新たに週5日通いたい方の受入れは難しい

年齢構成は20代1人、30代1人、

40代が半数、60代の方も在籍

- ・送迎：無し
- ・職員配置：常勤2名、非常勤2名
- ・作業内容：ミシンのかけやキャンドル作りなど
- ・工賃：毎日通所している方で月額約1万円
ポイントカード制を採用して出来高払
ポイントを平準化して月毎のばらつきを
無くすことで工賃の目安が分かり目標を
立てやすい



【おおきな樹】

- * 施設内見学、事業概要説明：小木施設長
- ・ 旧伊勢原市立中央保育園の建物を利活用
- ・ 市内発の児童発達支援センター
- ・ 開所：令和元年10月1日
- ・ 定員：30名（1クラス10名×3クラス）
令和元年11月1日時点で5名利用
12月以降の受入れ予定有り
- ・ 先生：1クラスに4名配置
- ・ 公認心理士1名を週1日配置 個別面談やクラスに入りスーパーバイザーの役割
- ・ 送迎：有り
- ・ 食事：有り
食べたことのない食品でアレルギーが出る可能性のある物をリスト化し、食べてよいかどうかを確認することで就学後の生活に備える
- ・ 指導内容、スケジュール、年間行事予定はパンフレットに記載
- ・ 事業：児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、指定障害児相談支援事業、指定特定相談支援事業、基幹相談支援事業（一般相談への対応、こども支援部会の運営）



事業所を実際に見ることで、各施設の役割や支援内容を理解することができ、今後の支援に活かせる良い機会となりました。



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

放課後ネットかながわ学習集会（こども支援部会共催）

日時 令和元年11月23日（土） 13：30～15：30

場所 伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

参加人数 17名

【主な議題と内容】

放課後ネットかながわと共催で神奈川県福祉こども未来局福祉部障害サービス課 担当職員を招き下記のテーマで制度などについての勉強会を行った。

1. 「障がいのある子を取り巻く情勢」

- ・ 特定処遇改善の現状
- ・ 平成30年度の報酬改定後の事業者の動向
- ・ 令和元年度のサビ児管の変更時間

内容

特定処遇改善加算については県内において40%近くの事業所が申請しているので積極的な申請を推進。サービス管理責者、児童発達管理責任者が統合され略称として「サビ児管」となり、それに伴い実務経験などの見直しについて説明。

参加者からのポストイット記述式の質疑応答に関しては、一つずつ回答。

神奈川県主催の大規模の制度説明会よりも小規模の説明会だったために、質疑応答時間も設定することもでき、参加者にとってはとても多くの情報を得ることのできた研修会であった。

第4回こども支援部会

日時 令和元年12月19日（木） 14：00～16：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 18名

【主な議題と内容】

1 令和元年度こども支援部会の振り返りと、令和2年度の取り組みについて

- ・ 本市の子どもに対する支援（生後から高校卒業後まで）について、児童発達支援センターおおきな樹が開所したことによる変化も含めて、どのような体制になっているのかをおさらいしたい。
- ・ 脳性麻痺の児童に対する支援方法を知りたい。
- ・ 高校生くらいの強度行動障がいのある児童への対応方法を知りたい。
- ・ 学校との連携の仕方を確認したい。

- ・放課後等デイサービスを利用している児童の卒業後の進路について、就労支援事業所や企業の受け入れに関する情報を知りたい。また、実際に見学をしたい。
- ・今年度に防災に関する勉強会を実施したが、防災への取組についてさらに学びたい。
- ・今年度の第1回目の事業所説明会で作成した事業所シートについて、サービス利用に関する情報を盛り込んで案内冊子を作成予定。冊子の内容について、12月27日までに意見等の提出を依頼。1月中に完成させて、窓口へ相談に来られた保護者等へ配布するとともに、相談支援事業所や通所支援事業所にも配布し、活用してもらう予定。

<令和2年度の取り組み案>

- 第1回：勉強会 or 情報交換会
- 第2回：勉強会 or 情報交換会
- 第3回：見学ツアー（相談支援部会等との合同）
- 第4回：1年の振り返り
- 第5回：GSV事例検討会

2 令和3年度児童発達支援センターの入園利用申込みについて

- ・おおきな樹の受け入れ状況と今後の受け入れ方法について資料を基に説明。
- ・市外の児童発達支援センターへの入園申込みについては、子ども家庭相談課での取りまとめは行わないため、各自が直接申込みを行う。あけぼの園、アグネス園、すきっぷの3園には説明し了解を得ている。次年度の申込み時期について、障がい福祉課で各園に確認し、相談支援事業所に情報提供を行う。

3 医療的ケア児の支援について

- ・退院、在宅支援の情報を知りたい保護者の声から「たすかりまっぷ」は生まれた。
- ・退院支援の導入時に活用する。はぐくみファイルに挟んで、地域にどのような資源があるのかを関係者がその都度記入していく。
- ・1月中に意見があれば提出してほしい。

4 児童受給者証更新について

令和2年3月31日で有効期限満了を迎える児童について、モニタリング、計画案の準備があるため、事業所の協力を依頼。4月から小学校に就学する児童のうち、4～6月生まれの児童については有効期間が短いため、申請書類及び計画案はコピー対応する。就学に伴い、多子軽減の対象外となる児童について受給者証を出し直して郵送する。

5 その他情報交換

- ・第5回的事例検討について、事例提供者のひこうせん栗城氏より事前の概要説明。

災害時支援部会

第1回災害時支援部会（当事者部会との合同開催）

日時 令和元年6月3日（月） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所 2C会議室

参加人数 災害時支援部会員 6名・当事者部会員 19名（内当事者14名） 計 25 名

【主な議題と内容】

1 「ビックレスキューかながわ」への参加協力について

※危機管理課 大山担当部長、山崎氏より概要について説明。

① 日時：令和元年8月31日（土）午前9時40分～10時10分予定

② 場所：伊勢原市総合運動公園体育館内

③ 3対象自治会：川上、宮下、原、新田、日向の里

<訓練内容>

9:10 障がい当事者集合

9:40 要配慮者対応訓練

2分・訓練概要説明（障がい福祉課職員）

5分・視覚障がい者への支援の仕方について（視覚障がい者：盲導犬）

5分・視覚障がい者への誘導の仕方について（視覚障がい者）

5分・聴覚障がい者への支援の仕方について（聴覚障がい者・要約筆記者）

5分・肢体不自由者への支援の仕方について（肢体不自由者：電動車いす）

5分・精神障がい者への支援の仕方について（精神障がい者）

3分 まとめ（障がい福祉課職員）

10:10 訓練終了

<質疑応答>

- ・要配慮者対応訓練において各障がい種別毎に5分程度話をする事になっているが知的障がい、内部障がいの説明時間が設けられていないのは何故か。
 - 限られて時間の範囲内で発表者の調整をさせてもらっている。他障がいについては事務局（障がい福祉課）での全体説明の中で行う。
- ・当日の交通手段について
 - シャトルバスが運行されるが、体育館近くまでの送迎が必要な方については、許可証を発行するなど調整は可能。
- ・毎年部会において、各避難所を周り要配慮者に対する支援方法について伝えてきているが、その場限りで継続がされていない。要配慮者に対する具体的な支援方法を避難所マニュアルに記載すべきではないか。
 - マニュアルへの記載も必要であるが、避難所運営委員会において避難者の対応について検討するため、各避難所での要配慮者の情報把握が非常に重要と考える。

2 勉強会

「災害時要援護者支援避難計画について」 講師：福祉総務課福祉政策係長 山内氏

※制度概要について説明

- ・平成31年2月末現在 登録者1,050人
- ・阪神淡路大震災時、脱出困難者35,000人に対し、77%が近隣の方、19%が消防職員等に助けられたとの調査回答あり。改めて近隣の方の支援の割合が高いことを認識した。

<質疑応答>

- ・避難所へ避難することが困難なため、自宅で避難することになると思う。その場合物資は自宅まで届けてもらえるのか。
 - 自宅で避難していることを把握してもらう必要があり、避難先である避難所運営委員会において、対応が協議されることになる。安否確認等を行うにあたり、台帳がその確認材料の一つとなる。
- ・要援護者登録をした際、自主防災会において支援者が調整されるが、把握していない障がい者も多くいる。顔合わせ等はされているのか。
 - 顔合わせできていない地域もある。
- ・電話番号が変更になった場合も変更届が必要か。
 - お願いしたい。



3 令和元年度の活動内容について

※各部会の活動予定について事務局より説明

(年5回)

- ・こども支援部会合同：各事業所における防災危機管理について（勉強会）
- ・当事者部会合同：ビックレスキューへの参加
- ・当事者部会合同：防災センター見学会
- ・1年の振り返り

4 その他情報交換

- ・「Butterfly（ばたふらい）」より講演会の開催について情報提供あり。

第2回災害時支援部会（こども支援部会との合同開催）

日時	令和元年6月28日（金） 10：00～12：00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	21名（災害時支援部会4名、こども支援部会17名）

【主な議題と内容】

※第2回こども支援部会記録を参照

第3回災害時支援部会(ビッグレスキューかながわ)

日時	令和元年8月31日（土） 9：00～12：00
場所	伊勢原市総合運動公園
参加人数	災害時支援部会1名、当事者5名、要約筆記サークルやまどり3名、 手話通訳者2名、障がい福祉課職員3名

【主な内容】

今年度は、ビッグレスキューかながわ（県・市合同総合防災訓練）の避難所設置運営訓練において、「要配慮者対応訓練」を実施しました。

「要配慮者対応訓練」では、災害が起きたときの障がい者への関わり方について5名の当事者から話を聞きました。また、並行して行われた「災害ボランティアセンター設置運営訓練」から要約筆記者のボランティア派遣を行い、要約筆記を行いました。

- 1 視覚障がい（盲導犬）について
盲導犬ユーザーの早乙女さんから、盲導犬と一緒に避難所で過ごす際の注意点や対応方法についてお話をいただきました。



- 2 視覚障がいについて、影山さんから、災害時に困ることや不安に感じること、視覚障がいを持つ人に対する配慮や対応についてお話をいただきました。



- 3 聴覚障がいについて、山口さんから、聴覚障がい者への接し方や、支援の必要性、情報提供の大切さをお話いただきました。
※隣は災害ボランティアセンターから派遣された要約筆記ボランティアの方です。



- 4 肢体不自由の障がいを持ち、電動車椅子利用者の吉川さんより、電動車いすを利用している方の支援について対応や注意点についてお話いただきました。



- 5 精神障がいについて、長塚さんより、精神の障がいを持つ人の想いや接し方についてお話いただきました。また、ヘルプマークについての紹介もありました。



訓練の最後に、配付した資料「災害が起こったとき障害のある人への支援について」の説明を障がい福祉課より行いました。

暑い中、地域の自治会の方などたくさんの方が訓練に参加してくださいました。



第4回災害時支援部会(神奈川県立総合防災センター見学)

日時 令和元年12月11日(水) 13:20~16:10

場所 神奈川県立総合防災センター

参加人数 23名(支援者7名、当事者13名、手話通訳者1名、職員2名)

【主な内容】

災害について知り、考え、備えるために、神奈川県総合防災センターで体験学習をしました。

神奈川県総合防災センターは大規模災害発生時には神奈川県の災害活動中央基地となる施設で、平成30年4月にリニューアルオープンして以降初めての見学となりました。見学ツアーが始まるまで自由に施設内を見て回り、見学ツアーでは実際に地震や煙避難などを体験して災害への備えの大切さを改めて認識することができました。



〈ガイダンスコーナー〉

ガイダンスコーナーでは、過去の災害の映像と防災についての基礎知識、防災情報を学びました。コーナー横にある大きな柱には、東日本大震災で記録された津波の高さの標(しるし)があり、震災で発生した津波の高さに皆さん驚かれています。



〈地震体験コーナー〉

東日本大震災、関東大震災、そして防災センターのオリジナル想定波となる神奈川県西部地震を体験。

巨大スクリーンに映し出される映像はかなりリアルで、数種類ある映像から、ショッピングモール、屋外道路上、教室バージョンを体験しました。

あまりの揺れのすごさに、必死でバーにつかまっています。地震が発生したら「まず、低く頭を守り、動かない」という安全確保行動の大切さについて学びました。



〈風水害体験コーナー〉

二重ドアのブースで風速 30m の強風を体験。
風速 10m で傘が折れ、20m で小枝が折れ、30m
で屋根瓦が吹き飛ばされるほどになるそうです。
暴風警報が出ている時は、室内にいたことが一
番の対策だそうです。体験後はあまりの風の強
さに皆さんビックリ！

今回は風だけでしたが日曜・祝日は、雨合羽
を着て暴風雨体験もできるそうです。



〈消火体験コーナー〉

ガラス張りのブース内で、消火器の使い
方を体験。

水消火器を使って、映像に向かって消火
しました。消火器は炎が天井に届く前まで
の初期消火にのみ効果があるそうです。

皆さんあわてずにホースを火に向けて発射
し、鎮火に成功していました。



〈煙避難体験コーナー〉

煙避難体験では、煙で周りの様子が分からない状態で、迷路のような場所を進んで出口を
目指しました。ハンカチやタオルを口や鼻に当てながら壁に沿って出て行く等、避難方法や
煙の特性を学びました。

〈防災シアター〉

津波、火山の危険について、迫力ある映像で見ました。神奈川県の江ノ島と箱根を舞台に
した津波や噴火の映像は、真実味があり、引き込まれました。直ちに避難場所に避難するこ
と、避難場所を確認しておくことが大事です。



CHECK!

〈災害時に必要な三つの事〉

- ・自助（自分の身を自分で守ること）
- ・共助（お互いが助け合うこと）
- ・公助（国や自治体による救助・支援）



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン



第5回災害時支援部会

日時 令和元年12月17日（火） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 7名

[主な議題と内容]

○令和元年度活動報告及び来年度の取組について

<令和元年度活動報告>

- ・第1回災害時支援部会（当事者部会合同）、第2回災害時支援部会（こども支援部会合同）、ビッグレスキューかながわ、神奈川県総合防災センター見学について報告

<意見交換>

【要援護者について】

- ・地域の人ほどの程度の情報を持っているのか。個人情報に関係もあり、自治会長は知っていても、地域防災の班長は知らないということもある。
- ・東沼目で見守り隊という活動をしており、月1で情報共有しているが、ここでもどのレベルまで地域で情報を共有していいのかという話はある。内々で共有している部分もある。

【防災訓練・災害時避難について】

- ・10月の台風後、医療的ケア児の避難方法について、不安であるとの声があがった。
- ・災害時、医療的ケアが必要な児が広域避難所に避難することが出来たとしても、その後の対応をどうするのが問題。
- ・ビッグレスキューに参加し、物資が足りないと感じた。福祉避難所の受入れもどこまで対応できるのか不明な部分はある。

【見学ツアーについて】

- ・アトリエヴェルデでは、年に1回は県総合防災センターの見学を行っている。
- ・横浜市民防災センターなど、まだ行っていない施設の見学をできるといい。

【その他】

- ・こども防災はニーズがなく次年度も開催なし。
- ・勉強会で今年度の災害時対応の様子等について危機管理課の人の話を聞いてみてはどうか。

<令和2年度の活動について>

- ・第1回は勉強会として危機管理課より令和元年度の災害についての話を聞けるよう調整。
- ・東京五輪、パラリンピックの開催もあり、総合防災訓練実施が秋頃になる予定。7～9月で当事者部会と訓練についての打合せを開催。
- ・7～9月頃で医療的ケア児者をテーマとした勉強会の開催について検討。
- ・12月頃に災害に関するツアーを開催。これまでに部会で見学していない横浜市民防災センターを候補地として検討。

就労支援部会

第1回就労支援部会

日時 令和元年5月31日（金） 10：00～12：00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 18名

[主な議題と内容]

1 部会長選任

神奈川能力開発センター大木氏退任に伴い、部会長を選任。

事務局推薦により「地域作業所ドリーム 遠藤氏」にて承認

2 伊勢原市における障がい者就労支援事業について

・就労移行支援、就労継続支援事業の平成 25 年～30 年度実績及び利用傾向等について事務局より報告。

・就労移行支援では、精神障がい者・知的障がい者共に平成 29 年度と利用者数は変わらず。

・就労継続支援B型は、精神障がい者の利用者が前年より 13 人増加。

3 令和元年度就労支援部会の取り組みについて（年 5 回）

(1) 障害者雇用促進月間（9 月）の取り組みについて

・昨年度は、厚木公共職業安定所が主催する未達成企業向け研修会で、雇用促進セミナーとして講演を実施。今年度の開催は未定。平塚公共職業安定所は、6 月に開催予定。

・大和市、平塚市、秦野市では、サポート校や養護学校 1～2 年生向けに就労継続支援 A、B 型や就労移行支援事業所を保護者に PR する「福祉事業所説明会」が開催されている。事務局で情報を集めて、伊勢原市での開催の有無を部会で検討していく。

(2) 企業・事業所訪問について

・当事者が参加すると意識が変わるので、今年度も一緒に参加できる企業で実施したい。

・秋か冬に水耕栽培の企業見学を予定。事業所に挨拶に来ている業者がいるので要相談。

(3) 「いせはら就労にゆうす」の発行について

・年 2 回の発行は今年度も継続し、事務局が中心で作成する。

(4) 伊勢原市役所における障がい者インターンシップ事業の実施について

・昨年度の実施なし。

(5) お悩み Q&A について

・お悩み Q&A は第 2 回目に行う。

・テーマは学校やサンシティ等も共有できるような事例が良い。事前に部会員にアンケートを取り、事務局でテーマの絞り込みを行う。

(6) その他情報交換

・神奈川能力開発センターの見学会で、4 人が就労につながった。事業所同士で企業説明会の情報を共有できると良い。

- ・地域作業所ドリームでは就労継続支援B型から就労移行支援に移行する人が多い。就職すると手取りが7000円から10万円になる。利用定員は4人で1人でも多く就職させたい。
- ・サンシティでは利用者が増えている。登録者は知的障がい者281→562人、身体障がい者31→26人、精神障がい者20→117人。相談件数も増えている。
- ・神奈川能開センターでは企業からの求人が多く、就労継続支援B型に行くような人が就職している。企業に就職しても課題があるため、頻繁に企業訪問している。
- ・ハローワークで出前講座を行っていることを周知していく。

第2回就労支援部会

日時 令和元年7月11日(木) 14:00~16:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 14名

[主な議題と内容]

1 勉強会

～現場のお悩み解決！Q&A「みなさん、こんな時どうしてますか？」～

今回は各事業所から事前に「現場のお悩み」を出してもらい、4つのグループに分かれて各テーブル1テーマを話し合い、最後に全体で共有する。

Q 利用者さん同士の恋愛にどこまで関わっていますか？好き嫌いでトラブルになることが続いています。どこまで皆様のところでは関わっていますでしょうか？

A・ルール化し、就職をするための（作業をして給料をもらう）場所だと伝える。

- ・意識づけのためにビシッと止めている。
- ・保護者面談をする。
- ・相手が嫌がっているようなら伝え、学んでいく。
- ・恋愛の勉強会（性教育）を行う。

Q 就労したがる人が多い。利用者さんの作業におけるモチベーションを上げていただくため、どのような対応をされていますか？

A・就労することで好きな物が買えることを伝える。

- ・スタッフが楽しそうに働く姿を見て、学んでもらう。
- ・工賃が上がるように作業内容を工夫し、自信を持てるように褒めて伸ばす。
- ・モチベーションを保てるように当初の目的を振り返る。
- ・ハローワークを見学し、就労意欲を高める。

Q 利用者さんが一日の大半を一緒に過ごす親御さんの意識改革が必要と感じた時、どのような対応をされていますか？（定期面談で解決できない場合等）

A・個人ではなく全体に対して説明する。

- ・本人と親の意向がズレることはあるので、面談を重ねている。
- ・問題があるたびに親に連絡をとっている。

Q ご本人様のご意向で10時を目途に通所すると決めていただきました。当初は9時半ごろに来られていましたが、他に自分で決めたことを守れない人を見て安心されたのか、だんだん守られなくなり、日数が経つにつれて11時や11時半、昼頃と、どんどん遅くなってしまっています。どのように対応したら良いでしょうか？

A ・なぜ早く行こうとするかを思い出してもらう。

- ・細かいスケジュールを書いてシミュレーションをする。
- ・遅刻連絡があったら「よく連絡をくれたね」と言い、遅れてでも来たことを褒める。
- ・なぜ自分で決めた時間に通所できなくなったかを振り返る。

2 福祉事業所説明会について

- ・協議会で福祉事業所説明会について報告し、実施に向けて進めていく。
- ・平塚市では福祉専門学校に声掛けし、ゼミの授業で来てもらえるように広報した。
- ・茅ヶ崎市は養護学校で実施した。
- ・平塚市では障害基礎年金の説明会や進路プッチ講座を同会場で行うことで集客を試みた。
- ・平塚市は小学1年生から周知している。学校は教育委員会を経由すると迅速な対応が可能。

3 その他

企業見学について

- ・株式会社スタートライン IBUKI EBINA FARM を見学予定。
- ・見学人数は10人程度。日程は事務局が調整する。

第3回就労支援部会

日時	令和元年9月2日(月) 14:00~15:45
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	11名 実習生1名 計12名

[主な議題と内容]

1 伊勢原市福祉事業所合同説明会について

※2019年度福祉事業所合同説明会・見学会福祉事業所一覧(案)、実施要項(案)、タイムスケジュール(案)参照

- ・市内事業所に、事業所説明シートの提出を依頼する。9月中に事業所説明シートの提出と参加可否の返事をもらう。
- ・複数の事業形態を行っている事業所(緑友会)では、参加事業所の数によって利用スペースの調整は可能。
- ・総合相談コーナーでは、相談支援員に協力いただき、障害福祉サービス利用までの流れ等を説明。相談支援員の対応が困難な場合は、市職員が対応する。

- ・伊勢原養護学校は全校生徒約 200 人。平塚養護学校は 200～250 人。秦野養護学校と湘南養護学校を合わせて約 1000 部必要。サポート校にも案内する。11 月上旬に冊子を届ける。市内事業所に 10 部ずつと、PDF データをメールで送る。
- ・養護学校では学校長から呼びかけてもらうために、10 月中に事務局でチラシを作成し、案内する。
- ・来年度の参考にするために、事務局でアンケートを作成し、当日配布する。貴峯荘は平塚市の合同説明会で、ブースで独自にアンケートを行った。
- ・当日の全体あいさつ後、部会長が 10 分程度で障害福祉サービスの説明を行う。

2 その他

企業見学の実施時期、場所について

- ・ 11 月に株式会社スタートライン IBUKI EBINA FARM を見学予定。10 名程度しか入れないため、2 グループに分けて車 2 台で 2 箇所を見学する。もう 1 事業所の調整は事務局で行う。

第4回就労支援部会（企業見学会）

日時	令和元年11月28日（水）	13:00～16:00
場所	株式会社スタートライン	IBUKI EBINA FARM
参加人数	15名（うち障がい福祉課職員3名）	※公用車2台で移動

[主な議題と内容]

- ・今年度は令和元年 6 月に設立した IBUKI EBINA FARM の施設見学や会社概要について、メンバー採用支援チームの主任 太等様、担当 安部様にお話を伺い見学させていただきました。

○施設概要

- ・10 年前にサテライトオフィスサービスを開始し、その後農園型障がい者就労支援サービス「IBUKI」を設立。現在は第 9 ファームまであり、利用企業は 150 社以上、障がい者約 900 名を支援している。
- ・IBUKI EBINA FARM では企業 8 社、障がい者 60 人が仕事をしている。
- ・隣接している IBUKI EBINA FARM2 は企業 2 社、障がい者 20 人が就労し、今後 5 社入る予定。
- ・IBUKI では、スタートラインが用意した「植物装置付き栽培室」を障がい者雇用の職場として企業が利用契約を結び、葉物野菜、ハーブ、花などの植物の栽培作業、加工作業を行う。作業中は、虫対策として内履きと上下白衣を着用している。
- ・栽培室 1 部屋に 3 名の障がい者従業員と 1 名の管理者が作業をし、サポートを行う。管理者は障がい者との関わりや支援に慣れていない方もおり、定着支援サポーターと栽培技術指導者が就労サポートと栽培サポートを行っている。



<1日の仕事の流れ>

就業時間：平日10：00～17：00

休憩60分（企業により異なる場合あり）

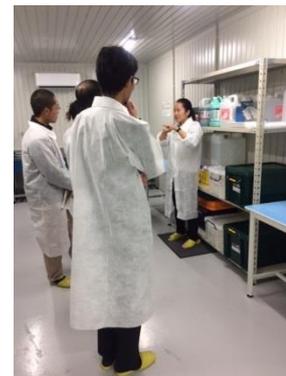
○培養作業

- ・種まき、水やり、栽培トレーの洗浄、鉢の選定・伐採、害虫駆除、植物装置や栽培室内の清掃、栽培物の収穫

○加工業務

- ドライ加工、乾燥ハーブの裁断、ティーバッグ詰め、パッケージの準備

見学時は白衣を着用し、コロコロで汚れを取り除いてから入室しました。
ピンセットで小粒な種や挿し木を植えたり、肥料をメスシリンダーで測りながら希釈する等細かい作業も多かったです。



<質疑応答>

Q. 管理者は本社から配属されるのか？

→本社から配属の方もいるが、多くはIBUKIで働くために採用された方である。月1回本社の方が来所し、本人と面談したり、広報誌に掲載するうなど本社との繋がりを持って欲しいと考えている。

Q. 1 か月に作成できる量は？

→精神障がい者で慣れて仕事ができる方々で、ハーブティーパック 1,000 個／月作成。作成できる数は作る方により変わる。できた物は福利厚生や社員食堂、ノベルティなどに活用されている。

Q. ノルマは？

→ない企業もある。しかし、現場からどのくらい頑張ったら良いか分からないという意見があり、ノルマを設定している企業もある。

Q. トラブルの有無とその対応は？

→同じ会社の人同士や違う会社の人ともトラブルになることがある。時間内や時間外でスタートライン職員が仲介することがある。また、施設入り口に設置しているデジタルサイネージにて注意喚起をしている。

Q. 3 年間で 150 社が参加しているが年間の伸び率は？

→1 年目に 2 社から始まり、3 年目で 9 社となっている。企業としては、昔に比べ単純作業がないこと、個人情報厳しく仕事の切り出しができないことなどの理由から、新たな開設を待っている企業もある。

障がい者福祉事業所合同説明会・合同就職説明会

日時	令和元年12月22日（日）
	■事業所説明会 10:00～13:00 ■就職説明会 13:30～15:30
場所	伊勢原市中央公民会 1階 展示ホール
参加人数	アンケート回収数（事業所説明会 39名 就職説明会 10名）

[主な議題と内容]

今年度、本市では初めて就労支援部会企画の「障がい福祉事業所合同説明会」と「合同就職説明会」を開催いたしました。準備期間が短く、また来場者の予測がつかず不安が大きい中での実施となりましたが、休日ともあって、たくさんの方にお越しいただくことができました。



事務局より、全体の流れやサービス内容について説明をしました。



ブースは市内通所事業所15カ所あり、複数カ所まわる方が多く、常に席がうまっているような状態でした。どの事業所に行ったらよいのか迷われる方については、スタッフでお声掛けし、ご案内等させていただきました。



パネル展示によるサービス概要の説明や、情報提供コーナーを設置し、参加していない事業所も含めパンフレット等による情報提供を行いました。

【参加者アンケート集計結果】

■事業所合同説明会

回答数 39人（親28人、本人7人、きょうだい1人、未記入3人）

障がい種別 知的27人、身体1人、精神4人、その他・未記入7人

学年 高校19人（1年7人、2年8人、3年2人、不明2人）

中学5人、小学3人、年長、大学1人、他

居住地 伊勢原27人、その他11人、未記入1人

サービス利用状況 放課後デイ19人、利用なし7人、他

周知きっかけ 学校案内22人、くらし安心メール11人、他

（自由意見）

- ・日曜日の説明会があったことが良かった。
- ・会場内がパーティションで区切ってあって良かった。
- ・いろいろな事業所の話が聞けて良かった。
- ・実際現場の方のお話を聞く機会があるのはとてもありがたいと思いました。
- ・親子で参加できるのは、とても良いと思いました。 など

■就職説明会

回答数 10人（51歳以上4人、41～50歳4人、21～30歳2人）

居住地 伊勢原9人、その他1人

職歴 あり1人、なし9人

就労希望時期 今すぐにでも4人、令和2年4月～3人、その他3人

周知きっかけ くらし安心メール5人、他

（自由意見）

- ・見学や実習の受入れも「もし良ければ」と言っていただき心強かった。 など

課題はありながらも、たくさんの方にお越しいただき事業所に関する情報提供をすることができました。また「伊勢原で開催されて良かった。継続して欲しい。」とのお声もいただきました。継続実施については、今回の反省も踏まえ、次回就労支援部会において協議したいと思います。

第5回就労支援部会

日時 令和2年1月15日（水） 14:00～16:00

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 16名

[主な議題と内容]

1 令和元年度就労支援部会の振り返りについて

○令和元年度就労支援部会活動報告書第1回～第4回を参考に、今年度行った活動の振り返りを実施。

○福祉事業所合同説明会および就職説明会の開催

- ・当市では初の試みであったが、部会員からも参加者からも好評であった。
- ・参加者の評価は、別紙アンケート集計表について事務局より説明。

[良かった点]

- ・会場の広さ ・日曜日開催 ・パーテーションの活用 ・冊子
- ・参加者カードが案内ツールとして良い

[改善案]

- ・開催時間が短く感じた ・駅にポスター等広域に周知できると良い
- ・当事者の参加が少ない ・広報やタウンニュースに開催報告の掲載
- ・参加者は知的障害者が中心であったため、周知方法を検討
- ・就職説明会では、求人票等用意し、確認後にブースで相談する
- ・就職説明会に総務も同席できると良い
- ・就職説明会ではなく、事業所が学校に出向き周知を図る など

2 令和2年度就労支援部会の取り組みについて

1回目：令和2年度の取り組みについて

2回目：各事業所の自慢話、苦労自慢、活動紹介など

3回目：福祉事業所合同説明会および就職説明会の開催

時期は11月初旬～12月初旬、日曜日、場所は中央公民館または市体育館を検討

4回目：企業見学

利用者が一緒に見学できると良い

5回目：年度のまとめ、振り返り

3 その他

○ハローワーク福元氏より情報提供

- ・求人情報検索方法について
- ・「就労支援パスポート」について

○事務局より研修、講演会に関する情報提供

精神障がい者支援部会

第1回精神障がい者ピアのつどい

日時 平成31年4月21日（日） 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 10名（内当事者7名）

<平成31年度開催予定>

	開催日時	場所
第1回	平成31年4月21日（日）	伊勢原シティプラザ （3階研修室）
第2回	6月16日（日）	
第3回	8月18日（日）	
第4回	10月20日（日）	
第5回	12月15日（日）	
第6回	令和2年2月16日（日）	

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

①自分が望む生活とは何か

- ・現状に満足する（そこそこに満足する）。 ・弱点は補う（克服しようとしめない）
- ・できることをやる。 ・父の様な生活を送りたい。
- ・当事者から学ぶ（良いところをマネする） ・トラブルなく、平凡な生活をしたい。
- ・理想と現実が違うが、キャリアウーマンになりたい。 ・人の徳を積む。
- ・できないことは諦める。無理なことは、無理と思う。
- ・諦めてやり方を変える。どうせ無理だと思わない生活 など

②家族との付き合い方

- ・言わなくても家族だから分かるでしょ、家族だから当たり前だと思わない。
- ・ありがとう、ごめんなさいをちゃんという。・甘やかす、やってあげる ではない。
- ・困っている時に助け合う（困っていない時は助けない）。・つかず離れず。
- ・家族は自分と同じだと思わない。 ・支配せず。支配されず。
- ・等価交換（母の家に住まわせてもらっているから、やりたくないこともやる）など

○次回のテーマについて ①お金の使い方 ②平成の思い出

第1回精神障がい者支援部会

日時 令和元年5月9日（木） 13：30～15：30

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 11名（うち障がい福祉課職員3名）

[主な議題と内容]

1 令和元年度精神障がい者支援部会の取り組みについて

○家族サロン 年3回実施

第1回 講演会

6/29（土）13:00～16:30 シティプラザふれあいホール

「家族のかかわり方」～回復力と高める接し方～

講師：心の相談カウンセラー SST リーダー 高森信子氏

第2回 〔第1部〕13:00～14:00 グループホーム（みらい伊勢原）見学。家族限定。

〔第2部〕14:00～15:30 語り合い

第3回 当事者と話そう（そよ風ハウス・つくしの当事者各1名を予定。

つくしで対象の方がいない場合はそよ風ハウスより2名）

・チラシは精神障害事業所連絡会で作成。第2回目のチラシは1回目の講演会で配布できるように用意する。

○ピアのつどい 年6回 偶数月 原則第3日曜日 場所：伊勢原シティプラザ

・令和元年よりちらしをダイケア（サテライトクリニック伊勢原、秦野4病院）にも送付した。

・第1回4月21日（日）実施。当事者に次回テーマの板書、進行を提案したところ、立候補者がおり、スムーズに実施できた。

・今年度は3・6回目に当事者発表を行うか2・5回目に提案する。

（行う場合は1テーマ+当事者発表5分/人*4名）

2 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築について

・平塚保健福祉事務所秦野センターより、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築促進事業」の取組について説明あり。

・伊勢原市では協議の場として「精神障がい者支援部会」を位置づけとして考えているが、具体的な協議はまだ行っていない。

・伊勢原市の事例をモデルケースとして検討したいとの提案あり、精神障がい者支援部会にて秦野センターと連携し、地域包括ケアシステムについて協議を行うこととする。

3 その他情報交換

○平塚保健福祉事務所秦野センターより、令和元年精神保健福祉相談ちらしの案内。

○自殺対策について、令和元年度は神奈川県精神保健福祉センターと協同で行うことを報告。

第2回精神障がい者ピアのつどい

日時 令和元年6月16日(日) 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 11名 (内当事者7名) ※初回参加者 0名

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

①お金の使い方

- ・お金の使い方はテーマが広く何を話したらいいかわからない。
- ・障害年金がないため、お金を使うには仕事を探して収入を得ることが大事。
- ・気持ちを変えたい時や自己投資にお金を使う。
- ・買物に行くと見た物を欲しくなるため、必要なお店以外には行かない。
- ・どんぶり勘定で使ってしまう。計画的に使おうと思っても週末になると残らない。
- ・家族から買いすぎと言われ、金銭管理してもらった。お金が入ると使ってしまう。
- ・収支均衡。収入が少ないなら使わない。お小遣い制、貯金、シンプルに生活するなど

②平成の思い出

- ・当事者会に参加して外に居場所がある、支えてくれる人がいると発見できた。
- ・地震(関東大震災、東日本大震災)、テロが多かった大変な年。
- ・関東でいつ起きるか心配。防災グッズを用意しておらず不安。
- ・平成25年に半年間、2回目の入院をした。 ・いい思い出はない。
- ・東日本大震災をきっかけにパニック障害を発症(現在完治)。
- ・当時片思いしていた女の子と初めて一緒に映画を観た。クレープやポップコーンを食べたり、最後分かれたが良かったがハイタッチして分かれた。
- ・平成23年1月に湘南国際マラソン10kmに参加した。大山マラソンは震災で中止。
- ・昭和最後の生まれで目上の人から平成でゆとり世代と思われ、平成世代からは昭和に見られて挟まれた世代。
- ・親族の葬儀が週2回あり、生と死を考えさせられた。
- ・医療から福祉に変わり、新しい制度が出来て暮らしやすくなってきた。 など

○次回のテーマについて ①皆にとってこういう場所があったらいいな(社会資源等)

②令和の時代にやってみたいこと

○その他

テーマを絞り過ぎると体験していない人が話せなくなるため、広いテーマもあって良い。休憩前に趣味コーナーに持参してくれた方の作品紹介の時間を作る。趣味の物を持ち込みやすいように職員も持参する。

第3回目のテーマについて、体験発表の希望は少なかった。テーマを決めないと話しにくい。また、話し以外にも趣味・特技の発表時間としても良いか。

第1回家族サロン

日時 令和元年6月29日（土） 13：00～16：45

場所 伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール

参加人数 87名（内訳：一般参加者 71名、事業所支援者 6名、
準備運営支援者〔事業所、保健所、市〕16名）

[主な議題と内容]

1. 講演会

「家族のかかわり方～回復力を高める接し方～」 高森 信子氏

- ・伊勢原市精神障害者を支える事業所連絡会が主催し、伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会精神障がい者支援部会、社会福祉協議会、平塚保健福祉事務所秦野センターが後援で開催。家族サロンと合同開催で実施。
- ・伊勢原市精神障害者を支える事業所連絡会が申込み先、ちらし作成・印刷、当日の進行を実施。市は市ホームページ・市 Twitter・Facebook・暮らし安心メール掲載、関係機関にちらし配布を行った。
- ・申込み時に立場（当事者、家族、関係機関など）を伺ってはいないが、35名程度が一般参加者。予約なしで参加する方も10名前後あり。
- ・座学1時間→参加者が「お困り事シート」を記入→休憩時間に回収→抜粋して高森氏が発表・助言→二人一組で演習。
- ・演習は、相手の気持ちを分かるポイント（資料参照）を元に、自分の考えを先に伝えず、聞く姿勢を取り、反復確認することの大切さを意識して1分対話を実施。その後、話し手が聞き手に良かった態度や対応をフィードバックした。

2. その他

- ・第2回目家族サロンのちらしを全員に配布

民生委員児童委員協議会 障害者福祉専門部会研修会

日時 令和元年7月11日（木） 9：30～11：10

場所 伊勢原市役所 20会議室

参加人数 民生委員児童委員38名、協力当事者3名、支援者2名、障がい福祉課1名

[主な議題と内容]

1. 平成30→31年度伊勢原市民生委員児童委員協議会 障害者福祉専門部会研修(学習)会から依頼があり、精神障がい者支援部会と協力して実施

テーマ「精神障害者福祉について考える ～当事者、支援者等それぞれの立場から～」

- ・障がい福祉課より 「精神障がい者の理解のために」
精神障がい者の特性や支援について説明
- ・精神障がい当事者 3名より、精神疾患発症から現在までの生活について発表。
- ・支援者2名（つくし相談室、そよ風ハウス）より、相談支援事業所・就労継続支援B型事業所の役割、支援の状況、対応のポイントなど説明。

精神障がいは、見た目では分からず、誤解や偏見がまだまだある。身構えずに普通に接して欲しい、自分の得意なことを活かしながら、苦手なところはサポートを受けながら生活しているというメッセージを、当事者自身から民生委員に伝えた。

支援者からは、日ごろの民生委員の皆さんのご協力に対する感謝が伝えられた。また、ある一部分に障がいがあり、上手くいかないことがあるだけで、全てが障がいということではない。色んな人がいて、自分らしく楽しく生活出来るよう支援を継続していくことをお話ししていただいた。

民生委員のみなさんは、うなずいたりメモを取りながら熱心に当事者のお話に耳を傾けていた。学習会の担当からは、来年も是非お願いしたいとお話をいただいている。

第2回家族サロン

日時	令和元年7月24日（水） 13：00～16：45
場所	①グループホーム見学（みらい伊勢原） ②伊勢原シティプラザ 3階 研修室
参加人数	① 家族 9名、支援者〔事業所、保健所、市〕 6名 ② 家族 9名、支援者〔事業所、保健所、市〕 9名 ※①見学時、支援者3名が②の会場準備を行った。

[主な議題と内容]

1. グループホーム見学（みらい伊勢原）
 - ・アパートタイプで、8名定員中6名入居。20～50歳代の男性4名、女性2名が入居。
 - ・65歳以上になると、介護保険のグループホームや地域の生活に移る。
 - ・みらい伊勢原では共同生活であること、自立した生活が身につけられるよう、室内禁酒・禁煙・騒音防止など10の約束事を決めている。
 - ・喫煙スペースは屋外にあり。
 - ・2グループに分かれて部屋と外を見学。室内はきれいで良い印象の意見が多かった。
- 当事者が喫煙者であることや、飲酒するなどホームの約束事に馴染めないことを心配する声もあったが、グループホーム見学をしたことのなかった方が多く、このような機会があることは好評であった。

2. 語り合い（司会進行：つくし 新實氏）

- ・自己紹介を含め、ご家族のことについてお話していただいた。
「本人に病識がなく、受診に繋がっていない」「どうやって薬を飲ませたらいいか」「措置入院とは」が主な話題となった。
- ・醜貌恐怖症であり、母が代理受診した薬を気が向いたら飲んでと伝えた。服薬すると落ち着いた体験ができ、その後一人で受診できた。
- ・薬は飲むとぼーっとして頭がおかしくなってダメと拒否的で、2年目に異常行動が出たが、本人は受診拒否。3年目に暴れ、物を壊したり、親に向かってくるため警察にも相談し、措置入院となった。心の病をどう対処したらよいか。親のアプローチが効かなかった。
- ・親亡き後にどのように生きていけるか心配。
- ・15年間入退院を繰り返している。根底の信頼関係が大事であると感じている。家族で見ていくために準備する予定であったが駄目と感じ、地域の中で暮らしていけたらと思い、グループホーム見学に参加した。
- ・妄想があり、医師より否定的な指摘ではなく、寄り添うよう助言をもらった。

→同じ病気でもそれぞれ病状や経過が異なり、対応も違うが、同じ家族の立場だからこそ一緒に悩んだり、わかり合うことができる部分もあると感じた。今回は多くの初参加者にご参加いただき、今後もより多くのご家族に参加していただけるよう、いろいろな機会を通じて幅広く周知していきたい。

3. その他

- ・語り合いでは、それぞれの体験談や同じ悩みを相談しながら話す時間となり、1時間30分を超過した。また、会場が広く、空調による雑音から声が届かずマイクを使用したが、マイク利用が苦手な方や大勢では発言しにくい人もいた。そのため、参加人数が多い場合は、2つの班にグループ分けすることも検討する。

第3回精神障がい者ピアのつどい

日時 令和元年8月18日（日） 13:30~15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 9名（内当事者6名） ※初回参加者 0名

【主な議題と内容】

1 語り合い

○今回のテーマ

①皆にとってこういう場所があったらいいな（社会資源等）

- ・フリースペースなど、仲間作りや交流を持てる場所があると良い。
- ・お茶会スペースを設けて、精神障害者以外の人も集まると良い。

- ・夜間空いている精神科病院が欲しい。
- ・対象地域を撤廃した地域活動支援センター1型が欲しい。
- ・大人数では上手く話せないため、少人数で集まり、友人作りができる場が欲しい。
- ・友人とお金がかからずに遊べる場が欲しい（大山、ハイキングなど）。
- ・工賃を稼いだ方が職員にお金が入る制度があるようで、稼げない人は行きづらい。この制度が変わると良い。
- ・スタッフの監視がないフリースペースが欲しい。

②令和の時代にやってみたいこと

- ・平成にできなかったことをする（5,000冊の本の整理、エレクトーン処分、片付け）。
- ・ゆっくりと生活したい。
- ・東京や大阪など4箇所仲間と写真展の個展を開きたい。
- ・新しい次世代のピアを見たい。
- ・フリースペースでお悩み相談室を開きたい。

○次回のテーマについて ①生活習慣を改善するために今できることは何か

②私の分岐点

○その他

今回より、休憩前に趣味コーナーの作品紹介の時間を設けた。作品前に皆で集まり、持参してくれた方に説明していただき、皆で共有することができた。今後もこの流れを継続する。



第4回精神障がい者ピアのつどい

日時 令和元年10月20日（日） 13:30～15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 11名（内当事者8名） ※初回参加者 1名

[主な議題と内容]

1 語り合い

○今回のテーマ

①生活習慣を改善するために今できることは何か。

- ・生活リズムを崩さない。ご飯を三食食べる、仕事や事業所に行く、睡眠を十分取る。
- ・再設計する。体力が衰えたり、昔より病気が酷くならない。同居家族の様子も変化する。それに合わせて、生活を組み立てる
- ・お気に入りの日帰り温泉に行く。
- ・テレビを観てゆっくる過ごす。
- ・基本は改善しない。帳尻を合わせる。
- ・ストレスを溜めない。
- ・頑張らない。
- ・野菜を沢山摂る。
- ・家族に振り回されないようにする。



(話し合った感想)

- ・精神の病気のあるなしではなく、みんなで話しができたことがよかった。
- ・生活の中で余白を作ることが大事だと思った。

②私の分岐点

- ・当事者会に行ったこと。
- ・両親の離婚。産まれた場所では住めないと感じた。引っ越して、近所の目が気にならなくなった。
- ・生活支援センターに行って、感動しびっくりしたこと。
- ・引っ越し。
- ・分岐点はいっぱいある。分かれた先に進んで、また戻ることもある。
- ・就職先で病気になったこと。
- ・病気を発症した後に、結婚の機会があったこと。

(話し合った感想)

- ・良い分岐点にしていきたい。
- ・分岐点は大切な過去でもあり、忘れない過去でもある。

○次回のテーマについて ①クリスマスの思い出

②私を救った一言

第3回家族サロン

日時	令和元年11月25日（月） 13:30～16:00
場所	伊勢原シティプラザ 1階 ふれあいホール
参加人数	22名（内訳：一般参加者 12名、事業所支援者・保健所 7名、市役所 3名）

[主な議題と内容]

司会：ねくすと 中村氏

1. 当事者の話

今回は当事者2名（A氏、T氏）に御協力いただき、ご自身の病気とのつきあい、家族との関係をお話しいただきました。

- ・やる気が出ず、辛い状況の時期があったが、親から怠けていると責められた。言い返す元気もなく辛かった。辛いのは病気のせいだと分かってほしい。
- ・病気と診断された時、親はショックを受けていた。その後本を読んで理解してくれているが、まだ不足な部分もある。
- ・たまたま目についた本のタイトル「今、ここを生きる」との言葉にハッとしたことターニングポイント。自分は先を見過ぎていたため、まず1日を見てみようと考えようになった。短所や長所を書き出し、自己理解を始めた。
- ・家族には、“自分達も学んで欲しいこと、価値観を押しつけていないか”と伝えたい。
- ・育て方が悪かったのではないかと質問を受けるが、結論は「分からない」。しかし、関わりが悪かったと感じたら改めて合ったやり方を考えて、やり方を変える。違う方向性を見つけ、変わるチャンスである。

〈質疑応答〉 ※一部抜粋

- ・病気と認識できたきっかけについて
 - 当時は自覚がなく、親に連れられて病院へ受診した。家族からの声かけはうるさいと感じることもあり、第三者から言われた言葉の方が受け入れられることもある。
 - 自ら病院を受診した。自分のせいではなく、病気のせいと分かって安心した。
 - ふと受け入れた方が楽と思った時があり、受け入れられた。
- ・病院の受診に家族がついてきてほしいか
 - 初回のみ同行受診し、以降は一人で通院している。
 - 家族からみた姿を医師に伝えてほしいため、2～3か月に1回来てほしい。

2. スタッフや同じ悩みを抱える家族との話し合い

- ・参加人数が多かったため、2グループに分かれて話しを行った。それぞれの家庭や家族の様子を共有し、情報交換を実施。
- ・障がい者の結婚について。
- ・親自身が自分自身を落ち着かせるために参加した。どうしたらいいか分からない。

- ・本人も病気の症状を調べて分かっていると言うが、病気ではないと否定する。本人が受診できない。親がいなくなったら一人はどう生きていくのか心配。

家族からのいろいろな質問に対し、当事者二人がそれぞれの立場で丁寧に答えていただきました。大勢の前で話しができる様子を見て、自身の家族との違いを感じてしまう声も聞かれましたが、当事者の立場からの経験、思いを伺える良い機会であったと感じました。



2グループに分かれたことで、程良い人数で各々が話しをすることができました。今後も参加人数が多い場合は、グループに分かれて話し合いができると良いと思います。

第5回精神障がい者ピアのつどい

日時 令和元年12月22日（日） 13:30～15:30

場所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 8名（内当事者6名） ※初回参加者 0名

【主な議題と内容】

1 語り合い

○今回のテーマ

①クリスマスの思い出

- ・特にない。いつも仕事をしている。
- ・お風呂に入っているとサンタが来ると言われていたこと。
- ・昨日参加した海老名市のクリスマス会が楽しかった。
- ・誕生日が近いのでいつも一緒にイヤだった。
- ・いつごろサンタが親だと気づいただろう。。。
- ・クリスマスなど、イベントはいいなと思う。

②私を救った一言

- ・「仲間だから」と言って、黙って隣りにいてくれた。
- ・「障がいは個性」。普通に接してくれた職場の人の言葉。
- ・自信とは、自分を信じること。
- ・向き不向きより、前向きに。
- ・入院しないで毎日過ごしているのは、月収10万円の価値がある。
- ・無駄な努力はしない。
- ・仕事はやれば終わる。
- ・煮詰まっている時に、「やめてもいいんじゃない」と言ってくれた。
- ・今はあなたが休む順番。

(感想)

- ・クリスマスの思い出を語ることはあまりないが、ほっこりできた。
- ・言葉で救われたり、がっかりしたり。言葉は大切。

○次回

- ①テーマについての語り合い 「仲間・友達との付き合い方」
- ②当事者体験発表



第2回精神障がい者支援部会

日時 令和元年12月23日（月） 10：00～12：20

場所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 9名（うち障がい福祉課職員3名）

[主な議題と内容]

1 令和元年度精神障がい者支援部会の振り返りについて

○家族サロン 年3回実施

- ・第1回 講演会、第2回〔第1部〕家族限定グループホーム（みらい伊勢原）見学、〔第2部〕語り合い、第3回〔第1部〕当事者と話そう、〔第2部〕語り合いを開催。
- ・スタッフから助言するのではなく、家族から家族へ助言や経験を伝えてもらえる場となっている。
- ・大きな動きはないが、回を重ねることで変化あり。大変さを訴えていた家族が困っている家族に助言しており、答えは出ないが良い相互作用がある。
- ・グループホーム見学は家族からの質問が多く、盛況であった。具体的なイメージが湧いたり、金銭面など気になることが確認できる。
- ・講演会は参加者も多く注目されているため、講演会をきっかけにする。講演後にパワーポイント等で数分家族サロンの紹介をし、雰囲気を知ってもらい、周知を図る。
- ・当事者の話は、できている所に目が行き、自分の子とかけ離れている印象を持つ人もいた。

○ピアのつどい 年6回 偶数月 原則第3日曜日 場所：伊勢原シティプラザにて実施

- ・令和元年よりちらしをデイケア（サテライトクリニック伊勢原、秦野4病院）にも送付した。
- ・当事者に次回テーマの板書、進行を提案したところ、進行は立候補者がおり、スムーズに実施できた。
- ・当事者発表の提案は3回目は希望なく、実施なし。6回目は1名希望者あり。前回体験発表でごちゃごちゃしたと感じた人やいつもと流れが変わることに抵抗がある人もいたため、語り合い1テーマ＋当事者発表（体験発表、趣味、伝えたいこと等）5分/人*4名枠で実施する。
- ・1テーマ15分で行っていたが、短いため20分に変更する提案があり、5回目に実施したところ、メンバー全員の意見を聞き、その上で質問が出るなど深めることができた。
- ・ピアメンバーがつどいを運営することができるか、どんな会になったらよいか、どんなことをしたらよいかをピア参加者から意見をもらいたいため、話せる機会があるとよい。6回目に上記内容を令和2年1回目にテーマとすることを提案する。ピアのチラシの掲載についても、参加者からの一言やテーマ毎の感想の掲載など参加者と検討していく。

2 来年度の取り組み

○家族サロン

- ・精神障がい者を支える事業所連絡会として令和2年6月27日（土）または6月13日（土）を候補日に、湘南東部総合病院 薬剤師 鈴木 徹二氏に講演依頼中。講演会で2回目のちらしを配布し周知する。
- ・2回目（事業所見学＋語り合い）、3回目の日程は次年度1回目の部会で決める。
- ・ちらし作成や必要物品等事前準備や当日の進行は事業所連絡会で実施しているが、主体でできるまで運営が固まっておらず、令和2年も共催での開催を希望。会場予約やチラシ印刷、配布は市で担当する。

○ピアのつどい

- ・年6回（4/19、6/21、8/23、10/18、12/20、2/21）シティプラザ研修室を仮予約申請中。
- ・スタッフ当番表は市で作成する。ピアのメンバーと一体的に実施できるよう、配置職員を市1名、事業所職員1名を検討する。
- ・1回目のつどいにて、できる人のみ会場準備を手伝ってもらうことを提案。

○精神障がい者支援部会

- ・1回目は令和2年5月8日（金）10時～12時を予定。

3 その他情報交換

○平塚保健福祉事務所秦野センターより、精神障害者ピアサポーターの魅力について語る研修会の案内。

○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築について

- ・平塚保健福祉事務所秦野センターより、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築促進事業」の取組について説明あり。
- ・今年度秦野センターにおける「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」は3ケースが伊勢原市の事例である。それらの事例をモデルケースとして、地域移行できない理由・課題など精神障がい者支援部会を検討の場としていく。
- ・伊勢原市におけるピアサポーターの考えについて。養成や活動を行うには、どこが何を担当するのか、委託の有無、名簿や適性の管理や確認など仕組みが整わないと困難。

以上

当事者部会

第1回当事者部会（災害時支援部会との合同開催）

日時	令和元年6月3日（月） 13：30～15：30
場所	伊勢原市役所 2C会議室
参加人数	災害時支援部会員 6名・当事者部会員 19名（内当事者14名） 計 25 名

[主な議題と内容]

※第1回災害時支援部会記録を参照

<令和元年度の活動内容について> （6回）

- ・体験発表会
- ・災害時支援部会合同：ビックレスキューへの参加
- ・災害時支援部会合同：防災センター見学会
- ・権利擁護部会合同：障害者週間街頭キャンペーンへの参加
- ・1年の振り返り

第2回当事者部会

日時	令和元年7月22日（月） 10：00～12：00
場所	伊勢原市役所 2C会議室
参加人数	18名（当事者11名、手話通訳者2名、付添支援者2名、ガイドヘルパー1名、市職員2名）

[主な議題と内容]

◎部会長あいさつ◎

3つの出来事

- ・6／21 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）が衆議院本会議において可決され成立。
- ・7／3 八王子駅 点字ブロック上を歩行していた視覚障がい者と衝突した男性が、1人で歩くなと暴言を吐かれた。
- ・滋賀県で、車椅子を理由にバスの乗車を断った。
→まだまだ色々なバリアがある。当事者が、声を出していかなければならない。

1 当事者発表

①視覚障がい者（70代、女性）

視覚障がい者が在宅で生活することが難しい時代。母親は、5歳から掃除や洗濯を教えしてくれたと当時を振り返り、今考えると将来困らないようにとの配慮だったと感じることでした。国立の盲学校（全寮制）で生活していたそうです。生活する中で、辛い言葉がけもあったようですが、ボランティアの方や会社の方など、大変周りに恵まれていたようです。ご結婚され、現在はご主人と生活されています。2年前の転居で生活環境が変わ

り、困ることも多いようですが、自治会の理事会役員に選ばれ、点字ブロックの設置などご苦勞もあるようですが、相談しながら進めているとのこと。

②精神障がい者（60代、女性）

平成13年からつくし（就労継続支援B型事業所）に通所しています。グループホームの生活を経て、アパートでのひとり暮らしも経験されています。現在は、体調面を考慮して、グループホームに戻り落ち着いた生活を送られています。短歌や俳句を作って楽しんだり、当事者活動でも活躍し、毎日が幸せだと笑顔で語っていました。誰かの役に立っていると思うと嬉しいと話されており、後輩や職員の相談にも乗ってくれる、温かい存在になっているそうです。

2 令和元年度障がい者スポーツ大会について

伊勢原市で毎年開催している「障がい者スポーツ大会」。当事者の意見を反映した運営を行っているため、当事者部会のみなさんから大会についての意見をいただきました。

- ・明るく笑顔で参加し、色々な障がい者が集まって楽しむことが出来るよう、お互いに交流できる時間があるといい。
- ・競技のアナウンスが多くないため、どこに並ぶのかなど分からないので、案内する人が付くと良い。
- ・リレーについて、早く早くとおおっている感じが有り、危ないと感じた。
- ・座ってできる競技があってもよい。
- ・色々な工夫があって良いと思う。
- ・現状の内容で良いのではないかな 等

→意見については、7/26 実施するスポーツ推進委員会との打合せで報告予定。

3 その他

- ・8/31（土）ビックレスキュー 当日の協力者（5名）の報告
- ・防災センター見学会 11月下旬～12月で実施予定



総合防災訓練 ビッグレスキューかながわ（第3回災害時支援部会）

日時	令和元年8月31日（土） 9:00～10:20
場所	伊勢原市総合運動公園 大体育室
参加人数	災害時支援部会員 1名・当事者部会員 5名 事務局 3名 手話通訳者2名、要約筆記者3名、ガイドヘルパー3名

【主な議題と内容】

※第3回災害時支援部会記録を参照

第2回権利擁護部会(障害者週間啓発街頭キャンペーン・当事者部会協力)

日時	令和元年12月3日（火） 13:30～14:30
場所	伊勢原駅 北口・南口
参加人数	54名（当事者23名・支援者31名）

【主な議題と内容】

※第2回権利擁護部会記録を参照

第3回災害時支援部会・当事者部会(神奈川県立総合防災センター見学)

日時	令和元年12月11日（水） 13:20～16:10
場所	神奈川県立総合防災センター
参加人数	23名（支援者7名、当事者13名、手話通訳者1名、職員2名）

【主な議題と内容】

※第4回災害時支援部会記録を参照

第4回当事者部会

日時	令和2年1月7日（火） 14:00～16:00
場所	伊勢原市役所 2階 2C会議室
参加人数	15名（当事者10名、支援者5名）

【主な議題と内容】

1 令和元年度の振り返りについて

○防災センター見学会

- ・地震、風、煙など、様々な体験が出来てよかった。
- ・リニューアルされて、映画の内容がわかりやすかった。
- ・実際に、災害が起こるとパニックになってしまう。体験は必要だと感じる。

○街頭キャンペーン

- ・グッズを受け取ってもらえない雰囲気があった。支援者がいたので、受け取ってもらいやすかった。

- ・歳末の募金と間違える人がいる。区別できるようにならないか。
 - ・障がい者の理解がまだまだであると感じた。
 - ・聴覚障がいでも声を出すことが出来ないため、配布しづらかった。
 - ・障害者週間の街頭キャンペーンで障がい者が配布していることが分かるように、表示があるとよいのではないか。
 - ・ヘルプマークやビブスなどを付けてもよいのではないか。
- 2 令和2年度の取り組みについて
- ・部会長交代
 - 立候補者がいない場合、次年度第1回開催案内で候補者を事務局に伝える。
 - ・バリアフリー点検。前回と別コースで実施したい。
 - ・障がい者用トイレの場所やトイレの様子などの情報が分かるようなマップ作り。
 - ・防災センター見学会は継続。
 - ・精神、就労の部会と当事者が、一緒に考える場があるとよい。
- 3 その他
- ・8/16（日）パラリンピック 採火フェスティバル開催
 - パフォーマンスの時間が30～40分ある。出演希望者は、障がい福祉課へ連絡。
 - ・防災訓練は、10月開催予定。